
「新編 新しい社会」 年間指導計画作成資料 【6年】

令和7年(2025年)1月版

※指導計画の表における「評価規準と評価方法」の列に、[]で示している箇所は、主として評価したことを記録に残す場面を示しています。

※単元ごとの配当時数、おもな学習活動、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	①身のまわりにある政治と政治の役割 P.6～7 わたしたちのくらしをよくするために、政治にはどのような役割があるのでしょうか。 (1時間)	○身のまわりで話し合いが行われていることや、話し合いで決められたことについて出し合う。 ・クラスの行事では、いろいろな意見が出て、一つにまとめるのが大変だった。 ○わたしたちのくらしと政治には、どのような関連があるか考える。 ・身のまわりのことでも、話し合いで決められていることが数多くある。 ----- 単元のめあて わたしたちのくらしと政治は、どのように結びついているのでしょうか。 -----	◆生活経験や学習経験から、話し合いで決められていることがないか出させる。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「わたしたちのくらしと政治の関連について関心を高めているか」を評価する。

目標

我が国の政治の働きについて、日本国憲法の基本的な考え方に着目して、見学・調査したり各種の資料などで調べたりしてまとめることで、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本国憲法の基本的な考え方について、見学・調査したり各種の資料などで調べたりして、必要な情報を読み取り、我が国の民主政治を理解している。	①日本国憲法の基本的な考え方に着目して、問いを見いだし、我が国の民主政治について考え、適切に表現している。	①日本国憲法の基本的な考え方について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解している。	②日本国憲法の基本的な考え方と国民生活を関連付けて、日本国憲法が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①くらしの中の日本国憲法 P. 8～9 日本国憲法とはどのようなものなのでしょう。 (1 時間)	○イラストを見て、身近な地域に人々の願いを実現するために行われている取り組みを探すとともに、それらが日本国憲法とつながっていることを考える。 ・書店にいろいろな本が並んでいることは、本を自由に出版できることとつながっている。 ・「非核平和宣言」の看板があることは、平和なまちをつくらうとすることとつながっている。 日本国憲法が、わたしたちのくらしのいろいろなところで生かされることで、わたしたちは安心して豊かな生活を送ることができる。 ①	◆身近な地域に日本国憲法につながる社会的事象が数多くあることに気づかせる。 ◆地域だけでなく、学校や教室の中にも日本国憲法につながる社会的事象があることに気づかせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「身近な地域の社会的事象と日本国憲法とのつながりについて考えることができたか」を評価する。
	②日本国憲法の考え方 P. 10～11 日本国憲法にはどのような考え方があり、それを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○日本国憲法の基本的な考え方を知る。 ・日本国憲法は、戦後、人々が平和を願う中でつくられた。 ・日本国憲法には、三つの原則がある。 ○くらしと日本国憲法のつながりについて気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。 ・教科書が無償で配られることは、日本国憲法と関係がある。 ・日本国憲法は、いろいろな人々のくらしに関係している。 ・くらしと日本国憲法のつながりには、他にどんなものがあるのだろうか。 学習問題 日本国憲法の三つの原則は、わたしたちのくらしにどのように生かされているのでしょうか。	◆日本国憲法がつけられた時期と三つの原則の考え方を関連づけて理解させる。 ◆家族の話を参考にしながら、身の回りのくらしを日本国憲法とのつながりからとらえさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「日本国憲法の三つの原則について理解しているか」を評価する。
	③学習の進め方 P. 12～13 (1時間)	○単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認するとともに、学習問題についての予想、調べることや調べ方、まとめ方などを発表し合い、学習計画を立てる。 <学習問題についての予想> ・日本国憲法の三つの原則は、市の政治に生かされているのではないか。 ・日本国憲法の考え方は、さまざまな立場の人々がくらしやすい社会をつくることにつながっているのではないか。 <調べること> ・国民主権の考え方とわたしたちのくらしのつながり ・基本的人権の尊重の考え方とわたしたちのくらしのつながり ・平和主義の考え方とわたしたちのくらしのつながり <調べ方> ・教科書を使って調べる ・教科書以外の資料で調べる ・市役所や地域の人にインタビューする <まとめ方> ・調べたことを、表や文でまとめる。	◆学習の進め方を参考に、学習計画を立てるようにする。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっていかすか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調べる	④くらしの中の国民主権 P. 14～15 日本国憲法の国民主権の考えは、市や国の取り組みにどのように反映されているのでしょうか。 (1 時間)	○国民主権の考えが反映されている市や国の施策について調べ、憲法が定める国民主権について、わかったことや考えたことを話し合う。 ・政治の代表者を選ぶのは、市であれば市民であり、国であれば国民である。 ・市役所には、市民の意見を政治に生かすための制度がある。 ・最高裁判所の裁判官も国民が審査する。 日本国憲法の国民主権にもとづいて行われている身近な取り組みには、選挙や情報公開制度などがあり、国民が主権者であることを示している。④	◆選挙や情報公開制度について、尼崎市を事例にして、市民が政治の中心であり、市民の声が政治に反映されていることについて考えさせる。 ◆市と国の政治を比べ、共通点を出させて、政治の中心は国民であることを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本国憲法の国民主権の考え方が市や国の政治に反映されていることについて理解しているか」を評価する。
	⑤くらしの中の基本的人権の尊重 P. 16～17 日本国憲法の基本的人権の尊重の考えは、市や国の取り組みにどのように反映されているのでしょうか。 (1 時間)	○基本的人権の尊重の考えが反映されている市や国の施策について調べ、憲法が定める基本的人権の尊重について、わかったことや考えたことを話し合う。 ・基本的人権の尊重の考えを理解できるように、本を出版したり、スタディツアーを実施したりしている。 ・公園にあるバリアフリートイレは、基本的人権の尊重の考えからつくられている。 ・日本国憲法は、基本的人権の尊重の考えにもとづいて国民の権利を保障するとともに、国民が果たさなければならない義務も定めている。 日本国憲法の基本的人権の尊重にもとづいて行われている身近な取り組みには、国民の生まれながらの権利を保障するものがある。⑤	◆尼崎市の「じんけんまなぶ本」の出版や「じんけんスタディツアー」などの取り組みを参考に、市や国が身近な人権を市民に理解してもらおうと努力していることを理解させる。 ◆国民の権利と義務の関係について考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本国憲法の基本的人権の尊重の考え方が市や国の政治に反映されていることについて理解しているか」を評価する。
	⑥くらしの中の平和主義 P. 18～19 日本国憲法の平和主義の考えは、市や国の政治にどのように反映されているのでしょうか。 (1 時間)	○平和主義の考えが反映されている市や国の施策について調べ、憲法が定める平和主義について、わかったことや考えたことを話し合う。 ・市では、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える取り組みが行われている。 ・国では、唯一の被爆国として、世界に向けて平和を願う心をアピールしている。 日本国憲法の平和主義にもとづいて行われている身近な取り組みは、戦争の悲惨さを伝えたり、平和を願ったりするさまざまな活動として表れている。⑥	◆尼崎市の取り組みを参考に、自分の市の取り組みについても調べ、平和主義の考えが生かされていることに気づかせる。 ◆国や日本のさまざまな地域でも平和に関する行事が行われていることに気づかせる。 ◆自衛隊の役割を理解させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本国憲法の平和主義の考え方が市や国の政治に反映されていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦まとめる P. 20～21	○学習をふり返って、日本国憲法の三つの原則がそれぞれ我が国の民主政治とどのようにつながっているのかをまとめる。 ・ 国民主権は政治の主人公は国民ということであり、情報公開制度や選挙などで、わたしたちのくらしに役立っている。 ・ 基本的人権の尊重は生まれながらの権利を大切にすることであり、人権を大切にするためのさまざまな取り組みが市や国で行われている。 ・ 平和主義は二度と戦争をしないということであり、戦争の悲惨さを伝えるための取り組みが全国各地で行われている。	◆ 日本国憲法の三つの原則や、自分の地域における日本国憲法に関する取り組みを、表にまとめさせるようにする。 ◆ 教科書に掲載された尼崎市の事例だけでなく、身近な事例と関連づけて、日本国憲法について考えさせる。 ◆ 話し合いを行う際には、ICT を有効に活用する。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを表や文などにまとめ、日本国憲法は、国家や国民生活の基本を定めており、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方にもとづいていることを理解しているか」を評価する。
	日本国憲法の三つの原則とくらしとのつながりについて、調べてきたことを整理し、友だちと話し合しましょう。 (1 時間)	○わたしたちのくらしに日本国憲法がどのように生かされているのかをまとめる。 ・ 国民主権の考えに基づいて、市役所には「意見箱」が設置されている。 ・ 基本的人権の尊重の考えにもとづいて、車いすが通りやすいように駅の改札が広くつくられている。 ・ 平和主義の考えに基づいて、わたしたちの市には戦争の遺跡が残されている。 日本国憲法は、国家や国民生活の基本を定めており、我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方にもとづいている。 ⑦		【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本国憲法の考え方を国民生活と関連づけ、日本国憲法が国民生活に果たす役割を考え、表現しているか」を評価する。

目標

我が国の政治の働きについて、日本国憲法の基本的な考え方に着目して、見学・調査したり各種の資料などで調べたりしてまとめることで、我が国の民主政治を捉え、国会、内閣、裁判所と国民生活との関わりを考え、表現することを通して、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本国憲法の基本的な考え方について、見学・調査したり各種の資料などで調べたりして、必要な情報を読み取り、我が国の民主政治を理解している。	①日本国憲法の基本的な考え方に着目して、問いを見いだし、我が国の民主政治について考え、適切に表現している。	①日本国憲法の基本的な考え方について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解している。	②国会、内閣、裁判所と国民生活との関わりを考えたり、学習したことを基に政治への関わり方について多角的に考えたりして、適切に表現している。	②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①選挙のしくみと税金の働き P. 24～25 国民の代表者である国会議員を選ぶ選挙について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○選挙で代表者を選ぶ際に、税金の集め方や使い方が大切な視点となることを考える。 ・わたしたちが買い物の時に払う消費税は、どのように使われているのだろう。 ・わたしたちの安全な生活を守っている消防署や警察署の方の給料も、税金で支払われている。 ・予算の収入の1/3が公債金で賄われていることを、どうしたら解決することができるだろう。 ○国民の代表である国会議員を選ぶ選挙について気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題を立てる。 ・小学生のいる親が安心して働けるような社会をつくってほしい。 ・お年寄りが健康で暮らせる国をつくるために、どのようなことが必要だろうか。 ・選挙の投票率が減っていることは、なぜ問題になっているのだろう。	◆身近な地域で行われた選挙を思い起こさせ、わたしたちの周りでは数多くの選挙が実施されていることに気づかせる。 ◆税金の集め方や使い方と選挙で代表者を選ぶことが深く関連していることに気づかせる。 ◆投票率が低下していることに気づかせ、選挙の役割がますます重要になっていることを考えさせる。	[思判表①] ノートの記述や発言内容から、「選挙で代表者を選ぶことと税金の集め方・使い方のつながりについて考えることができたか」を評価する。 [態度①] ノートの記述や発言の内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 わたしたちの国の政治は、国民の願いを実現し、国民の生活の安定と向上を図るために、どのような働きをしているのでしょうか。		
調べる	②国会の働き P. 26～27 国会にはどのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○国会の行うさまざまな仕事について調べ、国会の働きについて、わかったことや考えたことを話し合う。 ・衆議院と参議院の二つの場で話し合っ て、予算や法律を決定している。 ・予算を立てたり法律を決定したりする他に、国会はさまざまな仕事をしている。 ・国会での話し合いに、国民は常に関心を持たなくてはならない。 国民の生活の安定と向上を図るために、法律や予算などを審議したり決定したりすることが、国会の働きである。②	◆国会の仕事がわたしたちの生活と関係していることを理解させる。 ◆国会の仕事に常に関心をもつことが重要であることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国民の生活の安定と向上を図るために、国会の働きがあることを理解しているか」を評価する。
	③内閣の働き P. 28～29 内閣にはどのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○内閣の行うさまざまな仕事について調べ、内閣の働きについて、わかったことや考えたことを話し合う。 ・予算を決定するのは国会の仕事だが、予算案を作るのは内閣の仕事である。 ・内閣は世論調査などを通して、国民の声に耳を傾けながら仕事をしている。 ・国民の祝日も、国会や内閣の仕事と深く関わっている。 国会で決定された法律や予算にもとづいて、国民のために仕事を行うことが、内閣の働きである。③	◆国会で決められた法律や予算にもとづいて、国民のために仕事を行うのが内閣であるということを理解させる。 ◆国民の祝日の意義や由来を理解させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国会で決定された法律や予算に基づいて、国民のために仕事を行っているのが内閣であることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④裁判所の働き P. 30 裁判所にはどのような働きがあるのでしょうか。 (1/2 時間)	○裁判所の行うさまざまな仕事について調べ、裁判所の働きについて、わかったことや考えたことを話し合う。 ・社会のさまざまな争いごとを解決するのが裁判所の働きである。 ・国民の感覚や視点を裁判に生かすことを目的に、裁判員制度が始まった。 法律にもとづいて問題を解決し、国民の権利を守る仕事を行うことが、裁判所の働きである。 ④-1	◆国民ひとりひとりが裁判に関心を持ち、主権者として裁判に参加することが求められるようになって裁判員制度が開始されたことを理解させる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、法律にもとづき、国民の権利を守るために仕事を行っているのが裁判所であることを理解しているか」を評価する。
まとめる	④三権分立のしくみ P. 31 学習問題について、調べてわかったことを整理し、国会、内閣、裁判所の関係をまとめましょう。 (1/2 時間)	○学習を振り返って、国会、内閣、裁判所がそれぞれどのようにつながっているかをまとめる。 ・国会、内閣、裁判所は、権力が一か所に集中しないように、三権分立というしくみで成り立っている。 国の政治は、国民主権の考え方の下、国民の生活の安定と向上をはかる大切な役割をしており、国会・内閣・裁判所が三権分立のしくみの中で国の重要な役割を分担している。 ④-2	◆「まなび方コーナー」を参照しながら、国会、内閣、裁判所の関係をまとめるために、三権分立の図をノートに完成させる。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを表や文にまとめ、現在の我が国の民主政治は立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。

いかす	①優先順位をつけて考える P. 34～35 日本のさまざまな課題とそれを解決する方法について、優先順位をつけて考えてみましょう。 (1 時間)	○学習してきたことを生かして、社会に見られる課題を解決する方法について、優先順位をつけて、話し合う。 ・(例)「課題と方法②安全な暮らし」をいちばん優先すべきである。 ・(例)他に比べると「課題と方法⑨伝統文化の保存」の優先順位はそれほど高くない。 ・優先順位のつけ方にはいろいろな意見があって、一つにまとめるのは難しい。 社会の課題を解決するためには、日本国憲法と政治の働きを考え、国民一人一人の政治への関わりが必要である。 ①	◆「まなび方コーナー」を参照しながら、課題と方法の優先順位を決める際に、ダイヤモンドランキングで考えることが有効であることに気づかせる。 ◆自分と友だちの意見、他のグループと自分のグループの意見を比べて、考えるために ICT を活用する。	【態度②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、よりよい社会を考え、自分たちにできることを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに政治に関わるために自分たちができることを多角的に考えたり、自分の考えをまとめたりしているか」を評価する。
-----	---	--	--	--

目標

我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめることで国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、見学・調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解している。	①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだし、国や地方公共団体の政治の取組について考え、適切に表現している。	①我が国の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	②国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて政治の働きを考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①わたしたちの願いと子ども家庭総合センター P. 36～37 子ども家庭総合センターの様子と、子どもをもつ親の願いについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○市民の願いを調べる。 ・40代までの市民は子育ての願いが多い。 ○「あいぱれっと」の様子を調べ、利用する人のどのような問題が改善されそうか話し合う。 ・あいぱれっとは年間20万人以上が利用。 ・中高生も利用している。 ・あいぱれっとがあると、子育てをしている人は安心できそうだ。 ○あいぱれっとについて感じたことや疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・誰がこの施設をつくろうとしたのか。 ・どのように実現したのか。 ・法律や憲法とのつながりはあるのか。	◆世代ごとに市民の思いが違ってくることに着目させ、市民には様々な立場があることに気づかせる。 ◆公共施設であることに着目したり、前小単元の学習内容を振り返ったりしながら、疑問を出し合う。	[思判表①] ノートの記述内容から、「子どもをもつ親の願いに着目して、子ども家庭総合センターの建設について問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 子ども家庭総合センターがつくられるまでに、どのような人たちの、どのような働きがあったのでしょうか。 ○予想を出し合い、学習計画を立てる。 ・市はどのように関わっているのか。 ・市議会はどのように関わっているのか。 ・費用はどこから出ているのか。		[態度①] ノートの記述内容から、「学習問題の解決に向けて予想し、学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②市役所の働き P. 38～39 あいぱれっとの建設と運営に、市はどのように関わっているのでしょうか。 (1 時間)	○あいぱれっとの所長の話や資料4などを基に、市役所の取り組みを調べる。 ・国の法律に基づいて計画を立てている。 ・建設に国からの補助金も使われている。 ・市民の要望を実現する施設として2009年に話し合いを始めた。 ・市長のもとで作られた計画は、市議会での話し合いで決定され建設が始まった。 ○市役所は市民の願いをどのように取り入れているのか話し合う。 ・市役所に伝えられた要望を基に計画を作っている。 ・建設には市民の意見も集められている。 「あいぱれっと」で安全で安心できる活動や子育て支援活動を行うため、市長のもとで市役所が法律にもとづき、市民の要望や市の実態をふまえて計画を立て、予算を計算して建設し、運営している。②	◆法律や補助金との関わりなど、国との関わりで政治が進められていることに気づかせる。 ◆計画から実現までの過程に着目し、市役所の計画には市民の要望が生かされていることに気付かせる。	[知技①] 調べている様子やノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市民の要望をもとに、法律に基づき市役所で計画を立て子ども家庭総合センターを建設・運営していることについて理解しているか」を評価する。
	③市議会の働き P. 40～41 あいぱれっとができるまでに、市議会はどのように関わっているのでしょうか。 (1 時間)	○資料1～3、本文などを基に、市議会の働きを調べる。 ・議場では市長や市役所の人たちと議員は向かい合うように座る。 ・市役所が作った計画は議会が決定する。 ・議会を進める議員は市民が選挙で選ぶ。 ○市が作った計画に、議会の決定が必要な理由を話し合う。 ・国の法律や市民の要望などに基づいているかどうかをしっかりと判断するため。 ・議員は市民の代表として公平・公正な政策であるかを確かめる役割があるため。	◆前小単元までに学習した国会の働きを振り返りながら、市議会の役割を調べるよう助言する。 ◆市長も選挙で選ばれているが、議員が市民の代表としてさらに政策をチェックする仕組みになっていることで、公平・公正なものとなることに気づかせる。	[知技①] 調べている様子やノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、子ども家庭総合センターは、市議会が計画や予算を決定して建設されていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		「あいぱれっと」は、市の提案にもとづき、市民による選挙で選ばれた市議会議員が、市議会で計画や予算を決定して建設されている。このように、市民と市議会 は密接に関わっている。③		
	④税金の働き P. 42～43 あいぱれっとをつくり、運営するための費用は、どこから出ているのでしょうか。 (1 時間)	○資料1・2や本文を基に「あいぱれっと」の建設や運営の費用を調べる。 ・建設には約57億円かかった。 ・運営（1年）には約2億8000万円が必要。 ・利用者は0円で利用できる。 ・住民や会社などから集めた税金や国や県からの補助金で費用が賄われている。 ・憲法にある納税の義務が関係している。 ○「あいぱれっと」が税金で運営されている理由を話し合う。 ・税金で賄うことで、収入に関係なく誰でも自由に利用することでき、たくさんの市民を支えることにつながるから。 「あいぱれっと」を建設し運営するための費用には、市民や会社などから集められた税金や、国や県からの補助金などが使われる。税金は、わたしたちの生活や社会を支える大切なものである。④	◆施設の運営には人件費だけでなく、施設を維持するための費用が必要であることに着目し、高額である理由に気づかせる。 ◆利用者自身がその都度払うのではなく税金で運営されていることに着目することで、市民全体が利益を得られることに気づかせる。	【思判表①】 ノートの記述内容から、「子ども家庭総合センターの建設費用や運営に税金や補助金が使われていることの意味を考え、まとめているか」を評価する。
まとめる	⑤まとめる P. 44 あいぱれっとがつくられるまでの政治の働きについて、調べてわかったことをまとめ、グループで話し合いました。 (1 時間)	○学習問題を振り返る。 ○市民と市役所、市議会の関係を表す矢印の意味を（ ）に書き入れ、図を基に、「あいぱれっと」がつくられるまでの政治の働きについて自分の考えをノートにまとめる。 ○一人ひとりがノートにまとめた政治の働きについてグループで話し合い、自分の考えを振り返る。 ○市の広報誌などで、子育て支援以外の事業と市民との関わりを調べる。 ・高齢者の福祉サービスが行われている。 ・障害のある人への支援も行われている。 市の政治は、市民の要望と法律をもとに、市民が選挙で選んだ市長と市役所が計画を立て、市民が選挙で選んだ市議会議員によって決定された後、市民の税金を使って運営されている。このようにして、市民生活の安定と向上が図られている。⑤	◆学習問題を確認し、「市民・市役所・市議会の相互関係」に着目して図に整理させてから、学習問題についての自分の考えをまとめさせる。 ◆P. 36 資料2などと関連づけながら、様々な立場の人に向けて生活の安定と向上のための取り組みが行われていることに気づかせる。	【知技②】 図やノートの記述内容から、「調べたことを整理して、市の政治はわたしたちの生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容から、「国や地方公共団体の政治の取り組みと国民生活を関連づけて政治の働きを考え、表現しているか」を評価する。

目標

我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめることで国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考えの下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、見学・調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解している。	①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見いだし、国や地方公共団体の政治の取組について考え、適切に表現している。	①我が国の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	②国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて政治の働きを考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①東日本大震災の発生 P. 46～47 東日本大震災の被害から生活を立て直すためのまちの人たちの願いについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○大震災直後の気仙沼市の様子や新聞の号外などを見て気づいたことや考えたことを発表しあう。 ・津波がまちを襲った。 ・漁港も深刻なダメージを負った。 ・もとのまちになるか不安だっただろう。 ○震災直後と現在のまちの様子を比べてその間に何があったか話し合う。 ・漁港では3か月後には水あげを再開した。 ・大地震などの災害については前の学年で学習したのでその大変さが少し理解できる。 ・まちが現在のような状態になるまでに、どのようなことがあったのだろう。 ○被災した人々の願いを実現するためにはどうしたらよいか話し合い、学習問題につなげる。 ・家を建て直したい、早く漁業を再開したい、という願いがあったと思う。 ・みんなで協力したことは想像できるけど、もっと大きな助けが必要になったのではないか。	◆震災直後の写真や新聞の号外を見せ、東日本大震災の被害の大きさに気づかせる。 ◆号外などの新聞や年鑑などの資料を紹介する。 ◆震災直後と現在のまちや漁港の様子を比較して、違いに気づかせ、この間に起こったことを想像させる。 ◆願いの実現について、既習内容を効果的に活用し、自助や共助に加えて、公助の存在を想起させたい。	[思判表①] 新聞などの資料を読み取った際のノートの記事内容や発言内容から、「願いの実現のための政策の計画から実施までに着目して、学習問題を見いだしているか」を評価する。 [態度①] 学習問題の解決に向けた予想や学習計画についてのノートの記事内容や発言内容から、「解決の見通しへの意欲や見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 災害にあった人々の願いは、どのような政治の働きによって実現されるのでしょうか。		
調べる	②東日本大震災への緊急対応 P. 48～49 東日本大震災が発生したとき、市や県、国は、どのような取り組みをしたのでしょうか。 (1 時間)	○地震直後の市の取り組みについて調べる。 ・災害対策本部を設置して、避難所の開設や被害状況の確認を迅速に指示している。 ・被災した住民のために支援の手配を他の地方公共団体をお願いしている。 ○地震直後の県の取り組みについて調べる。 ・県全体の被害状況の把握 ・国への報告と支援の要請 ○地震直後の国の取り組みについて調べる。 ・各県と連携した自衛隊出動の命令と派遣人数の調整 ・他国への救助要請、物資や機材の確保 ・災害救助法の適用 ○市や県、国の連携のしくみや様子を関係図で調べ、話し合う。 ・大震災などを想定してすぐに動けるようにしている。 ・国や県、市以外でもいろいろなところと連携・協力している。	◆写真資料などをもとに、市の取り組みを具体的に捉えさせ、それをもとに、県や国の動きを捉えるようにする。 ◆「災害から人々を助ける政治の働き」の関係図をもとに、国、県、市が法律に基づいて、連携、協力して緊急事態に対応していることを捉えさせる。 ◆災害関連の既習内容を想起させ、自助・共助の視点からも確認させたい。 ◆災害救助法をはじめとした法律の重要性についても気づかせたい。	[知技①] 写真や関係図などからわかったことを関連づけて捉える際の発言、ノートの記事内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国や県、市などの地方公共団体の政治の取り組みについて理解しているか」を評価する。
		大震災などの災害の発生を想定して、震災直後から被災者を助けるために、市や県、国がそれぞれ連携・協力してすぐに動き出せるような体制がつくられている。②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③復旧・復興に向けた国の支援 P. 50～51 復旧・復興に向けて、国はどのような取り組みを行ったのでしょうか。(1 時間)	○写真や年表をもとに、災害からの復旧に向けた国の取り組みを調べ、わかったことなどを話し合う。 ・緊急災害対策本部を設置した。 ・復旧を進めるために、第一次補正予算を成立させた。 ・復旧と復興は、意味に違いのある言葉である。 ○災害からの復興に向けた取り組みを調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ・東日本大震災復興基本法を成立させた。 ・第二次、第三次補正予算を成立させた。 ・図を見るとわかるように、法律を成立させて予算を確保して復興に役立っている。 ・復興のための予算を出すためには、法律を成立させないといけない。 ・図から県や市も国からの支援を受けて、いろいろなことをしていることがわかる。 国は必要な法律を早急に制定したり、特別な予算を立てたりして、被災地の支援を行っている。③	◆年表をもとにして、法律や予算などの政治の働きを時系列で押さえられるようにする。 ◆「ことば」(復旧・復興)を参照しつつ、それぞれの意味の違いを確認する。 ◆「復旧・復興に向けた国や県、市町村の政治の働き」の図をもとに、法律や予算に基づいた具体的な取り組みを読み取らせる。 ◆既習の国会の働きを想起させる。	[知技①] 写真や年表、図などをもとにした発言内容やノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国の政策の内容、法令や予算との関わりについて理解しているか」を評価する。
	④市や市民の取り組み P. 52～53 復旧・復興と未来に向けたまちづくりのために、市や市民はどのような取り組みを行ってきたのでしょうか。(1 時間)	○写真や図式、年表などをもとに、市や市民の取り組みを調べてわかったことや考えたことについて話し合う。 ・市では震災復興計画をつくり、計画にもとづいて復興に向けたさまざまな取り組みをしている。 ・国や県、そして市や市民が連携・協力しながら復興に向けて取り組んでいる。 ・「気仙沼市では、水産業なしの復興は考えられません」という言葉から、市民にとっての水産業の重要さがわかった。 ・復旧や復興だけでなく、市の特色を生かしたまちづくりも同時に考えて進めていくことが大切だ。 ○復興を進めている被災地で、現在課題になっていることを調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ・震災前から人口の減少などの大きな課題があった。 ・市に移住してくる人のためにさまざまな情報提供に力を入れている。 ・「世界につながる豊かなローカル」というキャッチフレーズのもとに、市や市民が取り組みを進めている。 ・中学生が震災当時の様子を説明する語り部活動を行っていることから、震災の教訓を未来に伝えていくことの大切さがわかった。 市は震災復興計画を作成し、計画に基づいて、復興に向けた取り組みを行っており、また、市民も国や県、市の支援を受けながら、新しいまちづくりに向けて、みんなで協力している。④	◆写真や図、年表や市役所の人の話から、復興に向け、市がどのような計画を立て、どのような取り組みを行ってきたのか、具体的にとらえさせる。 ◆市役所の人の話から、気仙沼のまちづくりには水産業というまちの特色を生かすことが大切であることをとらえさせたい。 ◆今もなお残る課題についてもとらえさせる。 ◆市や市民が協力してまちづくりを進めており、そこに国や県が支援・協力しているという構図を押さえさせたい。	[知技①] 写真や図、年表やインタビューなどをもとにした発言内容やノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地方公共団体が、長期的な視野に立って地域の復興に向けて様々な施策を実行していることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤まとめる P. 54 災害からの復旧・復興とまちづくりについて、調べてきたことをまとめ、自分の考えを書きましょう。 (1 時間)	○学習問題について調べてきたことをもとに、人々の願いをかなえるために国や県、市はどのような取り組みをしたのかを表に整理する。 ・被災者には避難場所や情報、がれきの撤去、ライフラインの復活、交通網の復帰、衣食住の確保、復興に向けたまちづくりなどの多くの願いがあった。 ・国は予算を捻出するために、法律を制定して復興のための予算を確保した。 ・県は国からの予算の分配や、自衛隊への派遣要請などをした。 ・市は、震災直後は他の地方公共団体に応援要請をしたり避難施設を建設したりした。その後は復興を進めながら、市の特色を生かしたまちづくりに取り組んでいる。 ・市民は、震災を契機に気仙沼のよさを更に生かしたまちづくりを行い世界に発信していこうと市と協力している。 ○完成させた表をもとに、復旧・復興における政治の働きの大切さについて、自分の考えをまとめる。 ・これまでに学習した自助・共助・公助の意味や意義が、より具体的にわかった。 ・市民の願いをもとに、市町村、県、国が役割分担をしながらその願いを実現させていくしくみがよくわかった。 人々の願いを実現するために、国や県、市の政治の働き(法律の制定や予算の成立)がかかわっており、それらは、国民の生活の向上を図るために重要な働きをしている。⑤	◆東日本大震災の復興にはたくさんの人々が関わっていること、そのために、国や地方公共団体が連携・協力して取り組んでいることに気づかせる。 ◆4年、5年の自然災害の学習なども想起させながら、自助・共助・公助の意義を改めて考えさせたい。 ◆復興は国民の願いでもあることに気づかせたい。 ◆復旧・復興と未来に向けたまちづくりを関連させて考えさせたい。	【知技②】 これまでの国などの取り組み、人々の願いを整理した表の記述内容から「調べたことをまとめ、国や地方公共団体の政治は国民主権の考えの下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 表の記述内容や自分の考えのまとめから、「国や地方公共団体の政治の取り組みと国民生活を関連づけて政治の働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす (単元全体)	①公園づくりについて話し合おう P. 58～59	○公園づくりに関わる願いをもとに、どのような立場があるのかを確かめる。 ・親子連れは遊べる公園を願っている。 ・自然が豊かな公園を願う人もいる。 ・子どもは運動ができる公園を願っている。 ・防災の役割が必要だという人もいる。 ○市長の案を基に、公園づくりをどのように進めていけばよいか話し合う。 ・それぞれよさはあるが予算に限りがある。 ・立場によって求める公園は違うから、全てを同時にかなえるのは難しそうだ。その地域の今と先のことを考えて、優先順位を考えることが大切だと思う。 ○政治単元全体を振り返り、その考え方が自分たちの暮らしに生かせる場面を書く。 ・政治は様々な立場の人権の願いをもとにしながら優先順位を考えて行われている。 ・自分の住む地域の政治ではどんなことに重点が置かれているか関心をもとうと思う。	◆それぞれの案の長所や短所を検討させて同時実現の難しさに気づかせ、優先順位をつける必要性があることに気づかせる。 ◆国民主権、基本的人権の尊重、国民(市民)生活の安定と向上などに着目して、自分の生活との関わりを書くようにさせる。	[態度②] ノートの記述内容から、「これまでの学習を振り返り、政治単元の学習内容を自分たちの生活場面に当てはめて考えようとしているか」を評価する。
	地域のパークづくりについて、いろいろな立場の人の願いをどのように取りまとめていけばよいか話し合いました。 (1時間)	みんなの願いを実現するためには、さまざまな人の声を聞き、さまざまな立場になって願いを考え、積極的に意見を伝えることが大切である。 ①		

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	①歴史学習を始めよう～知っていることを話し合おう～ P.2～3	○知っている遺跡や古い建物、知っている歴史上の人物を挙げる。 ・原爆ドームは広島県にある。世界遺産になっている。 ・東大寺の奈良の大仏はとても大きい。 ・聖徳太子は一万円札の肖像画になっていたそうだ。 ・野口英世の記念館が福島県にあった。 ○これまでの社会科の学習を振り返り、6年生での歴史学習について話し合う。 ・3年生で、市の移り変わりを学習した。 ・5年生で工業製品の変化を学んだ。 ・6年生ではさらに詳しく学習しそうだ。	◆遺跡や古い建物の所在地、歴史人物と縁のある場所で知っているものがあったら、日本地図に位置づけ、日本全体の歴史を意識させる。 ◆これまでの歴史学習では変化や人物の取り組みに着目して学習してきたことを確認し、6年生での学習内容への関心を高める。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「歴史学習で学んでいくことについて見通しをもっているか」を評価する。
	②年表の見方を知ろう P.4～5	○「まなび方コーナー」を参考にして、年表の見方を調べる。 ・西暦、世紀、時代の意味を調べる。 ○年表をもとに時代ごとの主な人物や遺跡などの大まかな時期を調べ、位置づける。 ・聖徳太子は今から1400年くらい前の人だ。 ・西郷隆盛は明治時代の人物のようだね。 ・三内丸山遺跡は今から約5500年前にあった。 ○年表を見て考えたことや感じたことを話し合い、歴史単元のめあてをもつ。 ・現在に残っているものも、つくられた時代がそれぞれ違っている。 ・日本にはとても長い歴史がある。 ・現在の日本になるまでに、どのようなできごとがあったのかな。	◆等尺年表を使って時代ごとの長さを比較するなど、これから学習する内容に関心をもたせる。 ◆教科書の巻末年表もあわせて活用する。 ◆人物や建物の様子が大きく変化していることに着目して、歴史学習への関心を高めるようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「人物や建物の様子が現在になるまでに大きく変化していることに着目して問いを見いだしているか」を評価する。
	③歴史博物館に行こう P.6～7	○「まなび方コーナー」を参考にして、歴史博物館の利用の仕方を学ぶ。 ○歴史博物館を訪ね、見学・体験をする。 ・資料の解説文を読んだり、学芸員から話を聞いたり、展示物や映像シアターなどを見たりして、調べ学習に取り組む。	◆歴史博物館では、体験コーナーを設けていることが多い。実際に体験することを重視したい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容、見学の様子から、「歴史博物館の利用の仕方を理解しているか、歴史博物館の各種資料を活用して、必要な情報を集め、読み取り、まとめているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や地図、年表などの資料で調べ、世の中の変化の様子を考え、表現することを通して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、遺跡や地図、年表などの資料で調べ、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を理解している。	①世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）について考え、適切に表現している。	①狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、むらからくにへと変化したことを理解している。	②狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を関連付けたり総合したりして、世の中の変化の様子を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①大昔のむらのくらし P. 8～9 縄文のむらのくらしの様子について話し合しましょう。 (1 時間)	○三内丸山遺跡や出土品の写真、「縄文時代の人々の1年の生活」の図などを見て、当時の人々がどのようにくらしていたのか想像し、話し合う。 ・たて穴住居とよばれる住まいにくらしていた。 ・狩りや漁、採集中心の生活であり、食べ物が手に入らないこともあった。 ・生活に必要な道具を、石、木、骨などでつくっていた。 ・縄文土器を使って、調理をしたり、蓄えたりしていた。 縄文のむらの人々は、協力して狩猟や採集の生活を営み、必要な道具は、石、木、骨などでつくっていた。 ①	◆現在のわたしたちの生活（特に住居と食）と当時の生活の様子を比較し、生活の様子を想像させる。 ◆「縄文時代の人々の1年の生活」から、季節ごとに、どのようなものを手に入れていたのか調べる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「狩猟や採集の生活が営まれていたことについて、豊かな自然に着目して考え、表現しているか」を評価する。
	②板付遺跡と米づくり P. 10～11 米づくりが始まったころのむらや人々の様子について見てみましょう。 (1 時間)	○板付遺跡や出土品の写真、米づくりの様子の想像図を見て、米づくりが始まり、人々のくらしの様子がどのように変化したのか、気づいたことを話し合う。 ・米づくりのためのさまざまな道具が板付遺跡から出土している。 ・指導者を中心に力を合わせて米づくりをしている。 ・米づくりによって、食料を安定的に得ることができるようになった。 弥生のむらの人々は、同じ場所に集団で住むようになり、指導者を中心に協力して米づくりを行っていた。 ②	◆道具がどのように使われていたのかを想像図の中で確認し、くらしの様子を具体的につかむようにする。 ◆資料から、米づくりが大陸から伝わったことや、その後、日本の各地に広がっていったことをとらえさせる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「人々が定住してむらをつくるようになったことなどについて農耕に着目して考え、表現しているか」を評価する。
	③縄文時代と弥生時代のくらし P. 12～15 縄文時代と弥生時代の想像図を見比べながら話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○三内丸山遺跡と吉野ヶ里遺跡の想像図を調べて、それぞれの生活の様子について、わかったことや考えたことを話し合う。 ・縄文と弥生では、衣服の生地が違うようだ。住まいも変わってきた。 ・縄文のむらでは、狩りや漁をしたり、木の実をとったりしていたが、弥生のむらでは米づくりをし、とれた米を保存していたようだ。 ・弥生のむらでは、まわりに堀や柵がつくられている。兵士のような人もいる。 ○疑問に思ったことを発表し合い、学習問題をつくる。 ・食料を安定して手に入れられるようになって人口が増え、田も広がったのではないか。 ・道具はどのように変化していくのだろう。 ・弥生のむらにあった堀や柵は何のためにつくられたのだろう。 ・社会の様子は、どう変わっていったのだろう。 学習問題 米づくりが始まったことで、人々のくらしや世の中は、どのように変わっていったのでしょうか。	◆「何の想像図であるか」「読み取る視点を明確にする」など想像図の読み取り方を明確にして、縄文のむらと弥生のむらを比較させ、くらしの様子の違いに気づかせたり、疑問を持たせたりする。 ◆米づくりが始まって、縄文と弥生のむらにさまざまな違いが生まれたことを確認し、人々のくらしや社会の様子の変化を予想させる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「狩猟採集の生活から農耕の生活への変化に着目し、学習問題を見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	④むらからくにへ P. 16～17 米づくりの広がりによって、むらの様子はどのように変わったのでしょうか。 (1 時間)	○米づくりの広がりによって、むらの様子がどのように変わっていったのかを調べる。 ・米づくりの広がりにより、むらとむらの間で争いが起こった。 ・むらの指導者は、むらを支配する豪族となり、豪族の中には、まわりのむらに従えてくにをつくり、王とよばれる人も現れた。 ・各地の王や豪族は、大陸の進んだ技術や文化をくにづくりに役立てた。 米づくりが広がると、力の強いむらが周辺のむらに従え、次第にくにへと発展した。くにを支配する王や豪族は、大陸と交易し、技術や文化を取り入れ、くにづくりに役立てた。 ④	◆矢じりが刺さったままの人骨と集落を囲む柵を関連付けて考えさせる。 ◆米づくりが広がり、大陸と交易することで、世の中に大きな変化があったことに気づかせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、世の中の様子がむらからくにへと変化した様子を理解しているか」を評価する。
	⑤巨大古墳と豪族 P. 18～19 古墳は、何のために、どのようにして、つくられたのでしょうか。 (1 時間)	○仁徳天皇陵古墳の写真、古墳を築いている様子の想像図、出土品などから、古墳づくりの目的、王や豪族たちの力の大きさについて考え、話し合う。 ・古墳の大きさ、多くの人を動員してつくらせたこと、出土品などから、古墳にほうむられた人物が大きな力をもっていたといえる。 ・王や豪族たちは、自分の力の大きさを示すために古墳をつくらせた。 3～7 世紀には、すぐれた技術者を指図し、多くの人々を働かせて、古墳という墓が築かれた。古墳の大きさは王や豪族の力の大きさを表し、巨大な古墳が各地に現れた。 ⑤	◆古墳づくりの様子の想像図から、どのような人々が古墳づくりに携わったかを考えさせる。 ◆古墳の出土品や石室から、埋葬されていた人の力の大きさに気づかせていく。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、古墳の規模やその出土品、古墳の広がりなどを理解しているか」を評価する。
	⑥大和朝廷（大和政権）による統一 P. 20～21 大和朝廷（大和政権）は、どのように国土を支配していったのでしょうか。 (1 時間)	○大和朝廷の力が各地に広がり、国土がどのように統一されていったのかを調べる。 ・ワカタケル大王の名が記された鉄刀と鉄剣が熊本県と埼玉県、古墳から出土したことから、大和朝廷の力の広がりがわかる。 ・神話がつけられるほど、大和朝廷は、大きくて強い「国」になっていった。 ・渡来人の中には、建築や土木工事、焼き物などの技術を身に付けた人々がおり、進んだ技術を大陸からもたらした。 大和地方に、より大きな力をもつ大和朝廷（大和政権）が現れ、その中心に大王がいた。5～6 世紀ごろには、九州地方から東北地方南部までの豪族や王に従え、渡来人によって伝えられた大陸からの文化を積極的に取り入れた。 ⑥	◆鉄剣が出土した場所を地図で確認し、埼玉県と熊本県から出土したことの意味について考える。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、有力豪族たちがつくった大和朝廷によって、大和地方を中心に地域の統一が進められたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦まとめる P. 22～23	○学習問題について調べてきたことを整理し、新聞にまとめる。 ・米づくりの広がりによって、むらがくにへと発展していった。 ・王や豪族たちは、渡来人の技術や文化をくにつくりに役立てた。 ・大和朝廷が勢力を広げ、国としての日本の形ができ上がっていった。 ○調べたことを整理して新聞をつくる。	◆「ことば」で取り上げている言葉を使って、まとめを書かせる。 ◆当時の人がどのような生活をしていたかについて、その変化などに着目して、インタビュー形式でまとめるよう促していく。 ◆学習問題について調べてきた事実を整理し、それをもとに新聞を書かせ、最後に社説として自分の考えを書くようにする。	【思判表②】 新聞の記述内容から、「狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を関連付けたり総合したりして、世の中の様子の変化を考え、適切に表現しているか」を評価する。
	米づくりが始まったことで起こった変化について、まとめましょう。 (1 時間)	狩猟・採集の生活から、農耕の生活となり、生活や社会の様子は変化した。むらは次第にくにへと発展し、各地に大きな力をもつ豪族が出現し、やがて大和朝廷（大和政権）により国土が統一されていた。⑦		【知技②】 新聞やノートの記述内容から、「調べたことを新聞にまとめ、むらかくにへと変化したことを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について考え、適切に表現している。	①大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。	②大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①聖徳太子の国づくり P. 24～25 聖徳太子が行った政治について整理し、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○聖徳太子が遣隋使を派遣した目的や聖徳太子が行った政治について調べ、学習問題をつくる。 ・ 隋は、皇帝を中心とした政治が整い文化が栄えていた。 ・ 聖徳太子は、小野妹子らを隋に送り、隋の進んだ制度や文化、学問を取り入れ新しい国づくりに生かそうとした。 ・ 冠位十二階を定め、家柄に関係なく能力や功績で役人を取り立てた。 ・ 十七条の憲法を定め、政治を行う役人の心構えを示した。 ・ 豪族の力をおさえ、天皇中心の国づくりを目指した。 ・ 法隆寺などを建てて仏教の教えを人々に広めようとした。	◆日本と隋の国土の広さの比較からも隋の大国ぶりを捉えさせる。 ◆遣隋使の業績から、日本と隋とのつながりについて考えさせる。 ◆聖徳太子が目指した政治は、太子の死後どうなっていくのかと問いかけ、学習問題につなげる。	【思判表①】 発言内容から、「当時の世の中の様子や聖徳太子の行った政治に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、だれが、どのように受けついでいったのでしょうか。		
調べる	②大化の改新と天皇の力の広がり P. 26～27 聖徳太子の死後、だれが、どのような国づくりを進めたのでしょうか。(1 時間)	○大化の改新について調べ、聖徳太子の死後、国づくりはどのように進められたのかを考える。 ・ 中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏をたおし、大化の改新を進めた。 ・ 都から全国へ支配を進めていく仕組みを整備した。 ・ 豪族が支配していた土地や人々は国のものになり、豪族は貴族として政治に参加した。 ・ 地方の豪族も役人となってそれぞれの地方を治めた。 ・ 中国にならって最初の本格的な都である藤原京を飛鳥につくった。 ・ 人々は、租・調・庸といった税を納め、役を務めた。 ・ 都には日本各地から多くの産物が運ばれ、それらを管理するのに木簡が使われた。	◆主なできごとの年表をもとに、今後の学習の見通しもち、学習計画を立てるようにする。	【態度①】 発言内容から、「聖徳太子が目指した政治が誰にどのように受けつがれていったのかについて学習問題をつくり、年表をもとに調べる予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっていか」を評価する。
		中大兄皇子と中臣鎌足は、勢力を強めた蘇我氏を倒し、天皇を中心とする国づくりを進めた。国を治めるための法律もでき、都には日本各地から多くの産物が運ばれ、天皇を中心とする国づくりを支えた。 ②	◆聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、大化の改新後の国づくりの様子からどのような点が受け継がれていったのか、考えていく。 ◆都に運ばれてきた各地の産物の図版資料から天皇の力の広がりについて考えさせる。 ◆中国の政治の仕組みを取り入れたことで、天皇を中心に全国を支配する仕組みが整えられていったことをつかませる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、大化の改新による政治の改革により、天皇の力が強くなり天皇中心の政治が進められたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③仏教の力で国を治める P. 28～29 聖武天皇は、どのようにして世の中を治めようとしたのでしょうか。 (1 時間)	○当時の平城京の様子や年表から、聖武天皇が行った政治について調べる。 ・平城京は中国風の都で、東西南北にのびる道路で碁盤の目のように区切られていた。 ・天皇や貴族、下級役人などがくらし、にぎわいを見せていた。 ・地方の人々の生活は厳しく、重い税の負担に耐えかねて逃げ出すものもいた。 ・病気によって多くの人々がなくなり、全国各地で災害や反乱が起こるなど社会全体に不安が広がっていた。 ・仏教の力で社会の不安をしずめようと、国ごとに国分寺を建てることを命じた。 都では病気が流行し、都を支える地方でも人々のくらしは厳しく、なかなか政治が安定しなかった。聖武天皇は、仏教の力で社会の不安をしずめ、国を治めようとして、国分寺をつくらせた。③	◆資料から平城京の様子を読み取るとともに、地方の人々の厳しいくらしと比較し、多角的に当時の人々の様子を捉えるようにする。 ◆聖武天皇はなぜ仏教の力によって国を治めようとしたのか、年表などの資料を読み取らせて考えさせる。 ◆国分寺の想像図や分布図から、全国に国分寺を建てた聖武天皇の力の大きさを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、全国に国分寺を造らせた理由や国分寺を全国に造らせた聖武天皇の力の大きさについて理解しているか」を評価する。
	④大仏をつくる P. 30～31 大仏づくりは、どのように進められたのでしょうか。 (1 時間)	○大仏の大きさや、大仏づくりについて調べ、大仏づくりに込めた聖武天皇の願いについて話し合う。 ・巨大な大仏をつくり、仏の力で人々を救おうとした。 ・多くの人の協力で大仏をつくろうとした。 ・行基が大仏づくりに協力した。 ・すぐれた技術をもつ渡来人も活躍した。 ・聖武天皇の命令で、全国からばく大な物資が集められた。 ・のべ260 万人以上の人々が何年も働き、大仏が完成した。 ・開眼式には、天皇や貴族、僧など1 万人以上の人々が国の平安を祈った。 大仏をつくり、仏教の力で国を安定させようと、全国から人や物資が集められた。聖武天皇の詔の後、行基が弟子とともに大仏づくりに協力し、すぐれた技術をもつ渡来人の指導と多くの人たちの力で大仏が完成した。④	◆実際に、大仏の一部分（手のひらなど）を新聞紙などに写してみると大仏の大きさが実感できる。 ◆大仏づくりには、農民や渡来人、行基などが協力したこと、海外とのつながりや様々な人々が大仏づくりを支えたことに気づかせる。 ◆全国から集められた人数や材料の量、分布などから、当時の天皇の力の大きさを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、大仏造営には、当時の人々を救いたいという聖武天皇の願いがあったことや、当時の技術や国力を結集した国家的大事業であったことを理解しているか」を評価する。
	⑤大陸の文化を学ぶ P. 32～33 奈良に都があったころ、日本は、大陸からどのようなことを学んだのでしょうか。 (1 時間)	○遣唐使や鑑真のもたらしたもののから、どのようなことを日本は大陸から学んだのか調べる。 ・聖武天皇は唐から皇帝中心の政治の仕組みや大陸文化を学ぼうと遣唐使を唐に送った。 ・航海技術が発達していないために船が難破することも多く、唐に渡るのは危険な旅だったが、遣唐使は危険を乗り越え唐に渡り、多くの大陸の文化や文物を日本にもたらした。 ・大陸から渡ってきたものは、東大寺にある正倉院の宝物として保管された。 ・鑑真は何回も失敗しながら来日を果たし、唐招提寺を建立し日本で仏教を発展させた。	◆危険を乗り越え命がけで唐に渡った遣唐使の思いを考えるようにする。 ◆正倉院の宝物について調べる中で、それらの多くが外国の影響を受けていることなどに気づかせる。 ◆鑑真はなぜ、危険を冒してまで日本へ渡ってきたのか考える。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、奈良時代には、遣唐使や鑑真などの活躍により、大陸や仏教の影響を受けた文化が栄えたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		聖武天皇は、中国へ使者や留学生を送って大陸の政治の仕組みや文化を学ばせる一方、日本に正式な仏教を広めるために鑑真を招いた。このころ我が国には、大陸の文化が伝わってきた。⑤		
ま と め る	⑥まとめる P. 34 天皇中心の国づくりについて、調べてきたことを整理し、世の中の様子をまとめましょう。 (1 時間)	○調べたことをもとに、この時代に活躍した人物が、新しい国づくりのためにどのようなことを行ったのか、表に整理する。 ・「中大兄皇子、中臣鎌足、唐から帰国した留学生や留学僧」「聖武天皇」「行基」「鑑真」の四つの人物の観点で整理する。 ○整理したことをもとに、それぞれの立場の人物になったつもりで、天皇中心の世の中について説明する。 (例)・聖武天皇…わたしは、多くの人々の協力を得ながら、天皇である自分の力を使って全国に国分寺を建てたり大仏をつくったりして、仏教の力で世の中を平和にしようと思いました。 聖徳太子の国づくりは、中大兄皇子や中臣鎌足によって受け継がれ、聖武天皇のころには、仏教を取り入れた天皇を中心とした政治の仕組みが確立された。⑥	◆様々な人物の立場に立って、新しい国づくりのために取り組んだことを考えることにより、天皇中心の国づくりについて、さまざまな立場から多角的に考えることができるようにする。	【思判表②】 表や吹き出しの記述内容から、「天皇中心の国づくりの経過をふり返ったり、それぞれの人物の働きを考えたりして、この頃の世の中の様子を考え、表現しているか」を評価する。 【知技②】 表や吹き出しの記述内容から、「調べたことをまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や年表、その他の資料で調べ、この頃の文化の特色を考え、表現することを通して、貴族の生活や文化を手掛かりに、日本風の文化が生まれたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習してきたことを基に我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①貴族の生活や文化などについて、文化財や年表、その他の資料で調べ、日本風の文化が生まれたことを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、貴族のくらしやこの頃の文化の特色を考え、適切に表現している。	①主体的に学習問題を追究・解決し、学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①貴族と藤原道長 P. 36～37 藤原道長ら、貴族がどのような暮らしをしていたのか話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○藤原道長が詠んだ歌の意味を考え、道長がどのような人物だったのかを考えて話し合う。 ・この世は全て自分の思い通りにできると思っていた力のある人。 ・娘を天皇の妃にし、生まれた孫を天皇にして強い力を手に入れた。 ・平安時代の天皇に近づいた貴族は大きな力をもつことができた。 ○貴族は、どんな暮らしをしていたのかを調べ、わかったことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。 ・広く優雅な寝殿造のやしきでくらす。 ・広い庭や池もあり、そこで貴族が遊びを楽しんでいる。 ・蹴鞠をしている。 ・食事も庶民とちがう。 ・はなやかな文化が栄えたみたいだな。	◆「もち月の歌」から、貴族のなかでも特に藤原氏が力を持っていたことを読み取るようにする。 ◆寝殿造の屋敷の想像図やそこに描かれた人の様子を細かく読み取ることで、貴族の暮らしへの興味や関心を高めるようにする。 ◆貴族たちが華やかな暮らしをしていたことに気づかせ、そのような暮らしの中からもどんな文化が生まれたのだろうかという問いかけで、興味関心を高めるようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「どのような文化が生まれてきたかを考え、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 貴族が力をもって政治を行っていたころ、文化はどのようなものだったのでしょうか。		
調べる	②貴族のくらしの中から生まれた文化 P. 38～39 藤原氏が栄えていたころ、どのような文化が生まれたのでしょうか。 (1 時間)	○貴族のくらしの中から生まれてきた文化について、資料から調べる。 ・大和絵には、華やかな貴族のくらしの様子が描かれている。 ・男性は束帯、女性は十二単などが朝廷宮中での正装だった。 ・琴、琵琶、笛などをたしなみ、囲碁や双六で遊び、男子は、蹴鞠や乗馬も行う。 ・漢字からかな文字がつくられ、「源氏物語」など、現在では海外でも読まれる文学が生まれた。 ・小倉百人一首には、平安時代の女性の歌が何首も含まれている。 ・京都に都が移り貴族が力をもった頃に、貴族のくらしの中から日本風の文化が生まれた。	◆漢字からかな文字が作られたことが、日本人の生活や文化にどのような意味があったのかを考えさせる（「気持ちのこころが細かく表現できるようになった」など）。 ◆日本風の文化から生まれた当時の文学作品は後世、海外でも親しまれるようになったことなどもふまえて、貴族のくらしの中から生まれた文化の特色を様々な点から考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や資料を読み取った発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、貴族のくらしの中から生まれた文化の特色について考え、日本風の文化が生まれたことを理解しているか」を評価する。
		貴族たちのくらしの中から大和絵や十二単などの服装が生み出されたり、かな文字がつくられて、物語、随筆など多くの文学作品が書かれたりするなど、華やかな日本風の文化が生まれた。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③今に伝わる年中行事 P. 40 貴族が栄えていたころの年中行事で、今に伝えられているものには、どのようなものがあるのでしょうか。 (1/2 時間)	○貴族の年中行事で、今に伝えられ行われているものについて資料から調べる。 ・京都で行われている賀茂祭（葵祭）は、今から1200年前から始まり、今でも平安時代のいでのちの人々が行列をつくって市内を歩く。 ・お正月の行事や端午の節句、七夕などの行事も貴族の年中行事が今に伝わっている。 ・曲水の宴は、貴族の遊びだったけれど、今でも伝えられている。 平安時代の貴族の年中行事の中には、現在も続いているものがある。 ③-1	◆平安時代の主な年中行事で、今も行われているものを見つけることで、現代まで受け継がれてきていることの意味を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、貴族のくらしの年中行事の中には今に伝えられているものがあり、その意味について考え理解しようとしているか」を評価する。
まとめる	③まとめる P. 41 貴族のくらしの中から生まれた文化について、調べてきたことをもとに話し合い、平安時代の文化の特色をまとめましょう。 (1/2 時間)	○平安時代には、どのような文化が生まれてきたのか調べたことをもとに話し合う。 ・貴族のくらしの中からはなやかな文化が生まれた。 ・中国文化の影響を受けながら、日本独自の文化が生まれた。 ・貴族のくらしの中から生まれた文学は、日本だけでなく世界の人たちにも親しまれている。 ・貴族たちの年中行事の中には今も受けつがれているものがあり、かな文字や着物は今も使われている。 ○平安時代の文化の特色をキャッチフレーズに表現する。 ・世界の人たちにも親しまれている平安時代の文学作品 ・今につながる日本風の文化 ・年中行事が生まれた時代 京都に都が置かれたころ、貴族のくらしの中から日本風の文化が生まれたた。 ③-2	◆平安時代の文化の特色を、それ以前の文化と比較したり、後世への影響を考えたりしながら、貴族のくらしとの関係からまとめさせる。 ◆自分が書いたキャッチフレーズの内容について、その理由や背景を説明するように促す。	[態度①] キャッチフレーズの記述内容や発言内容から、「平安文化が現代の自分たちの生活にも引き継がれてきたことや、現代では海外でも親しまれていること、自分と平安文化の関わりなどについて考えようとしているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きなどに着目して、地図や年表などの資料で調べ、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きなどについて、地図や年表などの資料で調べ、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを理解している。	①世の中の様子、人物の働きなどに着目して、問いを見いだし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて考え、適切に表現している。	①源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。	②源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①武士の登場と武士の暮らし P. 44～45 武士のやかたの様子から武士とはどのような人々なのかを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○「武士のやかたの様子（想像図）」などの資料を読み取り、武士の生活の様子について、既習事項である貴族の生活との比較の観点で話し合う。 ・武士のやかたは堀や塀に囲まれ、門の近くには見張りらしい人がいる。 ・やかたの周囲には田んぼもある。 ・一族や家来たちらしい人たちが出入りしている。 ・武器の手入れや武芸の訓練、馬の世話などを行い、常に戦いに備えていた。	◆イラストは想像図であることに留意しつつ、武士のイメージをふくらませることができるよう指導する。 ◆既習事項である貴族の寝殿造や服装と比べたり、P. 45の「貴族を守る武士」の資料から武士と貴族の関係を考えたりしながら、武士の生活の様子を読み取るように助言する。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「武士が登場した頃の世の中の様子や彼らの暮らしを既習事項である貴族の暮らしと比較、着目して、学習問題をつくろうとしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 武士の登場によって、貴族の世の中は、どのように変わっていったのでしょうか。		
調べる	②平氏による政治の始まり P. 46～47 平氏は、どのように勢力をのばしていき、なぜ力を失っていったのでしょうか。 (1 時間)	○平清盛の年表を読み取り、武士の政治の始まりと平氏の政治の特徴についてわかったことを発表したりノートに書いたりする。 ・武士のなかには武芸を認められて朝廷や貴族に仕え、大きな力をつけていく者が現れた。なかでも天皇を祖先とする源氏と平氏は勢力が強かった。 ・平清盛は、貴族の藤原氏のように、娘を天皇の妃にして、生まれた子を天皇に立てるなど、朝廷の中で重い役を独占して強い力をもつようになった。 ・平清盛は宋（今の中国）との貿易を行って大きな利益をあげて富を得た。 ・平氏は一族に有利な政治を行うことによって、貴族やほかの武士から不満を持たれるようになった。	◆貴族の藤原氏が行った政治と武士の平氏が行った政治の共通点と相違点について考えさせることで、平氏が力を持った理由と力を失った理由がわかるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、平氏が力を伸ばしていった様子や力を失っていく原因について理解しているか」を評価する。
		武士団の中で力の強かった平氏と源氏が戦った結果、平清盛を中心とした平氏が政治の実権を握り、政治を思うがままに動かすようになったが、しだいに貴族やほかの武士たちの間で不満が高まっていた。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③源氏が平氏に勝利する P. 48～49 源平の戦いを通して、頼朝はどのような武士の政治を目指していたのでしょうか。 (1 時間)	○源頼朝が平氏をたおそうと兵をあげてから、鎌倉幕府を開くまでの思いや願いを調べるとともに、頼朝の政治の仕方について平氏との相違点についてもまとめる。 ・源頼朝が平氏をたおそうと兵をあげると、自分たちの領地を認めてくれる新しい武士のかしらを求めている東国の武士が次々に集まった。 ・頼朝の弟である義経に率いられた軍が、平氏に勝ち続け、壇ノ浦でほろぼした。 ・頼朝は平氏を倒すと、自分に従った武士たちを守護や地頭に任じたり、領地を認めたりして、東国武士たちの信頼を得ていった。 ・頼朝は朝廷から征夷大將軍に任命されて、東国を中心にした武士のための政治を行うようになる。 平氏打倒の兵を挙げた源頼朝のもとに武士たちが集まり、源義経らに率いられた源氏の軍が平氏を滅ぼした。源頼朝は征夷大將軍になり、鎌倉幕府を開き武士による政治を始めた。 ③	◆立場が弱かった東国の武士たちが頼朝に従うようになった理由を、頼朝が行った政治の仕方や、「源氏と東国武士の結びつき」とを関連付けて調べるように助言する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、源平の戦いと源義経の活躍、武士が源頼朝に従うようになった理由などについて理解しているか」を評価する。
	④頼朝が東国を治める P. 50～51 頼朝は、どのように武士たちを従えていったのでしょうか。 (1 時間)	○鎌倉の地図やご恩と奉公の関係図、政子のうったえなどをもとにして、源頼朝が武士たちをどのように従えていったのかを考える。 ・源頼朝は「ご恩と奉公」の関係を武士たちと結ぶことを通して、御家人たちを従えた。 ・平氏のように京都を政治の中心にしなかったのは、朝廷や寺社との関係や、東国の武士たちを従えるなどの地理的な問題や歴史的な経緯があったのではないか。 ・承久の乱の後、鎌倉幕府の力は西国にまで及ぶようになり、執権の北条氏を中心とした幕府は法律や裁判の制度を整えて支配力を強めていった。 源頼朝は、ご恩と奉公の主従関係で武士を従えた。承久の乱の後、執権の北条氏を中心とした鎌倉幕府の力は西国にまで及ぶようになった。 ④	◆源頼朝が御家人たちと結んだ「ご恩と奉公」の関係については、守護・地頭に任命することや領地の所有など具体的な働きについても考えるように促す。 ◆頼朝が鎌倉に幕府を開いたことについては、朝廷や寺社との関係や、東国の武士たちを従えるなどの地理的な問題や歴史的な経緯があったことなどに視野を広げるように促す。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、鎌倉幕府の始まりに関わる地理的理由・歴史的背景や、ご恩と奉公の関係について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤元の大軍がせめてくる P. 52～53 鎌倉幕府は、どのように元軍と戦い、その後は、どうなっていたのでしょうか。 (1 時間)	○元の大軍との戦いの様子を絵図や写真などをもとに、御家人たちが一所懸命に戦った理由、この戦いが後の鎌倉幕府にどのような影響をおよぼしていったのかを考える。 - 元は日本に服従を求めてきたが、執権の北条時宗はその要求を退けた。 - 武士（御家人）たちは、元軍の集団戦法や火薬兵器（てつほう）などに苦しみながら、恩賞である領地を得るために一所懸命に戦った。 - 御家人である竹崎季長は一所懸命に戦うがそれは恩賞である領地をもらえるから。 - 元は引き上げたが、幕府は御家人たちに恩賞の領地を与えられず、御家人たちの幕府への不満が高まった。 元軍の襲来に対して、各地から集められた武士（御家人）たちは一所懸命に戦ったが、幕府から新しい領地をあたえられなかったため、御家人たちの幕府に対する不満は高まった。⑤	◆元との戦いで、武士たちが一所懸命に戦った理由を「ご恩と奉公」との関連で考えさせる。 ◆国宝の蒙古襲来絵詞に登場する竹崎季長の行動を読み取ることで御家人の気持ちが理解できることに気づかせる。 ◆執権北条時宗が元との戦いに御家人になっていない武士も動員したことによって幕府の力が全国におよぶようになったことに気づかせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、元との戦いで御家人たちが一所懸命に戦ったこととご恩と奉公との関係などについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑥まとめる P. 54 武士の世の中への移り変わりについて調べてきたことを整理し、自分の考えをまとめましょう。 (1 時間)	○武士の発生から元寇までの世の中について、いくつかの視点で整理する。 - 平氏の政治と源氏の政治のちがいはどのようなことか。 ○関係する人物のせりふを考え6コマまんがを完成させる。 - 竹崎季長の各場面のせりふを考えて、お互いに発表し合う。 - 他の人物についても場面を設定してせりふを考え、お互いに発表し合う。 平清盛、源頼朝、源義経らの働きによって武士による政治が始まり、源頼朝がご恩と奉公という主従関係によって武士を統率した。⑥	◆調べたことを整理する際には、「ことば」の利用を促す。 ◆人物のせりふを考え合う際には、学んだ事実を生かして表現できるように促すとともに、相互に考えを尊重し合うことができるように配慮する。	[思判表②] 6コマまんがやノートの記事内容から、「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連づけて武士の政治の特徴を表現しているか」を評価する。 [知技②] 6コマまんがやノートの記事内容から、「竹崎季長のせりふを考え、武士による政治の特徴を理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化や地図、年表などの資料で調べ、この頃の文化の特色を考え、表現することを通して、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画を手掛かりに、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習してきたことを基に我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画について、文化財や地図、年表などの資料で調べ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれたことを理解している。	①人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画や、この頃の文化の特色を考え、適切に表現している。	①主体的に学習問題を追究・解決しようとし、学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①足利義政が建てた銀閣 P. 56～57 銀閣の様子を見たり、金閣と比べたりしながら話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○金閣と銀閣の写真を比較し、資料をもとに調べる。 ・金閣は、足利義満が建てて、はなやか。 ・銀閣は、足利義政が建てて、とても落ち着いた印象で、金閣と全く違う。 ○「書院造の部屋」や年表をもとに、わかったことや疑問をもとに話し合い、学習問題をつくる。 ・障子やふすまがあって、現在の和室に似ている。 ・書院造は、現在の和室とつながりがあるのかもしれない。 ・室町時代に、茶の湯や生け花などが流行している。	◆地図や年表を用いて、いつ、どこに建てられたのかを確認する。 ◆書院造と現在の和室を比較させることで、現在とのつながりに気づかせる。 ◆茶の湯や生け花が流行したことにも気づかせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「京都の室町に幕府がおかれた頃の代表的な建造物や絵画などに着目して問いを見出しているか」を評価する。
		学習問題 室町時代の文化は、どのようなものだったのでしょうか。		
調べる	②新しい文化が生まれる P. 58～59 室町時代の文化には、どのような特色があるのでしょうか。 (1 時間)	○雪舟の「天橋立図」を見て、気づいたことを話し合い、雪舟や水墨画について調べる。 ・墨でもこんなに濃淡が描けるとは素晴らしい。 ・実際に中国まで行って本場の水墨画を学び、日本でも芸術として大成させた。 ・日本の自然の美しさを求めて描き、作品には国宝もある。 ○室町時代に生まれた、茶の湯や生け花について調べる。 ・お茶を飲む習慣が広まり、茶室もつくられるようになった。 ・書院造の床の間を飾る生け花もさかんになった。 ・今では、日本人だけでなく外国人も親しんでいる。 ・庭園づくりもさかんになった。	◆墨で自然を表現する技法や、描かれている風景などに着目させる。 ◆茶の湯や生け花が、書院造とつながっていることに着目させる。 ◆水墨画、茶の湯、生け花が現在も親しまれていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、水墨画や茶の湯などの室町時代の文化の特色を理解しているか」を評価する。
		室町時代には、雪舟が水墨画を大成し、茶の湯や書院造の床の間を飾る生け花などの文化が生まれ、それらは今も多くの人に親しまれている。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③室町文化と現在のつながり P. 60～61 室町時代に生まれた文化で、現在に伝わるものには何があるでしょうか。 (1/2 時間)	○室町時代に生まれた、お祭り、盆踊り、能や狂言について調べる。 ・民衆の力が強まり、お祭りや盆踊りが各地で行われるようになった。 ・能は、観阿弥や世阿弥が大成した。 ・狂言は、民衆の生活などが題材にされていたので、多くの人が楽しめた。 ○室町時代に民衆に広まった習慣を調べる。 ・豊かな人々は、1日3回食事をする習慣が起った。 ・うどん、豆腐、こんにゃく、しょうゆや砂糖も使われるようになった。 ・食にも現在につながるものが多い。 民衆の間では祭りや盆踊りがさかんに行われるようになり、日本の伝統芸能である能や狂言も生まれ、庶民に親しまれるようになっていった。生活面でも、現在につながる習慣が生まれた。 ③-1	◆能や狂言が、民衆の生活とつながりがあることに気づかせる。 ◆祭りや盆踊り、食生活には、現在のわたしたちの生活につながっているものが多いことに気づかせるとともに、数百年にわたって人々がそれを受け継いできたことに気づかせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、能や狂言などの室町時代の文化の特色について理解しているか」を評価する。
まとめる	③まとめる P. 61 室町時代の文化について調べてきたことを整理し、まとめましょう。 (1/2 時間)	○これまでに調べたことを発表し、「ことば」を使って、室町時代の文化の紹介文を書く。 ・室町時代の書院造は、現在の和室に受け継がれている。 ・室町時代に生まれた食材や調味料は現在でも使われている。 ・雪舟の墨絵の作品は、現在も多くの人に感動を与えている。 ・茶の湯や生け花は現在の日本人に受け継がれ、外国人にも親しまれている。 京都の室町に幕府が置かれたころ、今日の生活文化につながる室町文化が生まれ、武士や貴族から民衆に広まり、今日も多くの人に親しまれている。 ③-2	◆今まで調べたことを整理する中で、それぞれの文化と現在とのつながりに目を向けながら、自分の考えを書くように助言する。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、室町時代に生まれた文化や習慣が今日の自分たちの生活に受け継がれていることを考えようとしているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表、その他の資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を理解している。	①世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見だし、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え、適切に表現している。	①キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、戦国の世が統一されたことを理解している。	②キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①戦国大名の登場 P. 64～65 長篠の戦いがあつたころの世の中は、どのような様子だったのでしょうか。 (1 時間)	○資料1「長篠の戦い」を見てわかったことや感じたことを発表する。 ・織田信長や豊臣秀吉などの武将がいる。 ・川をはさんで、織田・徳川の連合軍と武田軍が戦っている。 ・織田・徳川の連合軍は馬を防ぐ柵をつくって鉄砲で戦い、右の武田軍は騎馬隊で戦っている。 ○資料3「1570年ごろの主な戦国大名」や本文をもとに、このころの様子を話し合う。 ・日本各地に、戦国大名と呼ばれる力をもった武将がいた。 ・お互いの勢力を広げるための争いが、全国各地で100年ほど続いた。 ・鉄砲を使った織田信長はかなり強かったのではないか。 室町幕府が衰えると、戦国大名が各地で戦いを続ける戦国の世となり、鉄砲を使って長篠の戦いに勝利した織田信長や豊臣秀吉が力を発揮するようになった。①	◆長篠の戦いの様子を丁寧に読み取らせる。右上にある徳川方の長篠城を武田勝頼が攻め、それを助けにきた織田・徳川連合軍との間で起きた戦いであることを補説する。 ◆本文や戦国大名の分布から、全国各地で勢力を広げる争いが行われていたことに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、戦国大名が各地で戦いを続ける戦国の世となり、織田信長が力を発揮するようになったことについて理解しているか」を評価する。
	②天下統一を進めた二人の武将 P. 66～67 戦国の世の変化について話し合っただけで学習問題をつくり、学習計画を立てましよう。 (1 時間)	○「長篠の戦い」の頃の様子と資料1「大阪城の城下町の様子」を比べ、疑問に思ったことを話し合っただけで学習問題をつくる。 ・急激に社会が安定しているように見える。 ・100年以上も争いが続いていたのに、なぜ争いがなくなったのか。 学習問題 織田信長、豊臣秀吉は、どのようにして戦国の世を治めていったのでしょうか。 ○年表をもとに予想し、学習計画を立てる。 ・ヨーロッパとどのような関係だったか。 ・織田信長はどのようなことをしたのか。 ・豊臣秀吉はどのようなことをしたのか。 ○調べ方やまとめ方についても話し合う。 ・教科書、資料集、図書館の本、インターネットなど。 ・図に整理し、学習問題について話し合う。	◆100 年以上も続いた不安定な社会が急速に変化したことに着目して、疑問を出し合うようにする。 ◆年表上の出来事や取り組みに着目し、外国との関係、法やきまり、政治の仕組みなど、既習内容を振り返りながら予想させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「社会の変化や、信長・秀吉の働きに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けて予想し、学習計画を立て、解決の見通しをもっていか」を評価する。
調べる	③ヨーロッパ人の来航 P. 68～69 戦国の世では、日本とヨーロッパにはどのようなかわりがあったのでしょうか。 (1 時間)	○この時代の日本（戦国大名）が、外国とどのように関わっていたのかを教科書の資料や本文をもとに調べる。 ・鉄砲など、ヨーロッパの進んだ文化や品物が入ってくるようになった。 ・ザビエルは九州に来て、そこから西日本を通過して京都までやってきた。 ・キリスト教の布教が進み信者が増えた。 ○戦国大名がヨーロッパと進んで関わろうとした理由について話し合う。 ・鉄砲などの武器によって戦いを有利に進めようとしたのではないか。 ・貿易をさかんにすることで勢力を高めようとしたのではないか。 ザビエルによってキリスト教が伝えられたり、南蛮貿易でヨーロッパの進んだ文化や品物が入ってきたりするなど、外国との関わりが日本の宗教や戦い方などに影響を与えた。③	◆スペインやポルトガルにとっては信者拡大と貿易を求めたこと、戦国大名にとっては武器などを入手できたことに資料から気づかせる。 ◆キリスト教の布教を許可することで貿易をさかんにできること、それによって勢力拡大につながることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、キリスト教の伝来や南蛮貿易など、ヨーロッパとの関わりが日本の宗教や戦国大名の戦い方に影響をあたえたことについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④天下統一をめざした織田信長 P. 70～71 織田信長は、天下統一をするために、どのようなことを行ったのでしょうか。 (1 時間)	○教科書の資料や本文をもとに、織田信長が、天下統一に向けてどのようなことを行ったのか調べる。 ・鉄砲を使うなど、戦い方を工夫した。 ・堺などの商業都市をおさえて豊富な資金を手に入れ、鉄砲などの武器を使って、少しずつ勢力を広げ、室町幕府も滅ぼした。 ・自らの力を示すために安土城を築いた。 ・キリスト教を保護した。 ・誰でも商売ができるようにして（楽市・楽座）、商業や工業をさかんにした。 ○信長の取り組みと天下統一とのつながりを話し合う。 ・経済を活性化させることで領地内を豊かにしたり武器を生産したりしたことで勢力を拡大でき、天下統一を進められた。 織田信長は、商業都市をおさえて資金を蓄え、鉄砲などの武器をそろえて有力な大名を倒して勢力を拡大した。そして、安土城を築いたり商業をさかんにしたりして天下統一を進めていった。④	◆信長が戦いを有利に進めるために戦い方を工夫しただけでなく、商業都市を支配して安定的に武器を生産できたことなど、経済への取り組みも行っていることに気づかせる。 ◆戦いとは直接関係なさそうな楽市・楽座などの経済的な取り組みも、「天下布武」と関連付けることで、自国を豊かにすることにつながることに気づかせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「織田信長による経済力や軍事力を高める取り組みと、天下統一とのつながりを考えまとめているか」を評価する。
	⑤豊臣秀吉による政治 P. 72～73 豊臣秀吉は、天下統一を進めるために、どのようなことを行ったのでしょうか。 (1 時間)	○教科書の資料や本文をもとに、豊臣秀吉の取り組みを調べる。 ・明智光秀を倒した。 ・朝廷から関白に任じられ、全国の大名や仏教勢力をおさえて天下統一を成し遂げた。 ・検地で確実に収入を得られるようにした。 ・刀狩令で百姓が反抗できないようにした。 ・家康らに領地を与え、各地を治めさせた。 ○秀吉がつくったきまりは、世の中にどのような影響を与えたのか話し合う。 ・武士と百姓の身分が区別された。 ・武士が支配する仕組みが整えられた。 豊臣秀吉は、全国の有力な大名を倒して大阪城を築き、検地と刀狩によって武士と百姓・町人の身分を区別し、武士が世の中を支配する仕組みをつくって天下を統一した。⑤	◆戦いだけでなく、関白の地位についたこと、検地などの仕組みや刀狩などのきまりを作ったことにも気づかせる。 ◆それぞれの身分に与えられた役割に着目させることで、きまりによって人々の生活の仕方に影響が及んだことに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、豊臣秀吉が世の中を支配する仕組みをつくって天下を統一したことについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑥まとめる P. 74～75 信長と秀吉が どのように天下 統一を進めてい ったのか、調べ てきたことを整理 し、話し合いまし よう。 (1 時間)	○信長と秀吉の取り組みを振り返る。 ○二人の武将が行ったことを図に整理し、学習問題についての自分の考えをノートに書く。 ・信長も秀吉も、戦国の世を自ら治めるために、自分の力が最も高まるように政治の仕組みやきまりを整えたことで、戦国の世を統一することができた。こう考えた理由は、信長は戦いが有利になるように経済も大切にして豊かになるようにしていたし、秀吉は刀狩などで反抗できないようにしていたからです。 ○信長と秀吉の取り組みのうち、天下統一に向けて特に重要だったものはどれかを考え、話し合う。 ・刀狩などのきまりや、各地を有力な大名に治めさせるしくみをつくったことが、天下統一に最も重要だったと思う。 織田信長と豊臣秀吉は、ヨーロッパとの貿易を進めたり、経済力を高めたり、制度や法を整えたりして力を高め、戦国の世を統一していった。⑥	◆図に整理する前に、各時間（第3～5時）でまとめをカード化させておいてもよい。図に整理する際には、天下統一とのつながりが記述できているかを確認させる。 ◆ここでは一つに集約させるのではなく、児童一人一人が経済・きまり・社会の仕組みなどに着目して根拠を明確にし、ながら主張することを大切にする。	【知技②】 図やノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、キリスト教の伝来などの外国との関わりや二人の武将の天下統一に向けた働きを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容から、「二人の武将の天下統一に向けて果たした役割について考え、表現しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、表現することを通して、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について考え、適切に表現している。	①江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。	②江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①徳川家康と江戸幕府 P. 76～77 江戸幕府が力を強め、政治を安定させたしくみについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○徳川家康が、どのようにして江戸幕府を開いたのか調べる。 ・三河の小さな大名の子に生まれ、苦労を重ねたが、成長するとともに勢力を伸ばし、戦いにすぐれた強い武将として知られた。 ・秀吉の死後、多くの大名を味方につけて勢力を強め、関ヶ原の戦いで対立する大名を破り、全国支配を確かなものにした。 ・朝廷から征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開いた。 ・豊臣氏を滅ぼすとともに一国一城令を出し、大名の居城以外の城の破壊を命じた。 ○江戸幕府が大名をどのように配置し、どのような場所を直接支配したのか調べ、話し合う。 ・外様大名がすぐに江戸を攻められないよう工夫して配置している。 ・主な鉾山や都市は幕府が直接支配している。	◆関ヶ原の戦いの図から、戦いの激しさを読み取らせる。 ◆「主な大名の配置」の図から、親藩、譜代、外様といった大名が、江戸からみてどのように配置されているのか考えさせる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「徳川家康の生涯や江戸幕府による大名配置に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 江戸幕府は、どのようにして力を強め、政治を安定させようとしたのでしょうか。	○学習計画を立てる。	【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②将軍による支配の安定 P. 78～79 徳川家康が開いた江戸幕府は、徳川家光にどのように受けつがれたのでしょうか。 (1 時間)	○徳川家光が、どのようにして江戸幕府を受け継ぎ、権力を確立したか調べ、話し合う。 ・日光東照宮は家光の権力を大名たちに見せつけるうえで大きな役割を果たした。 ・家光は江戸城と江戸の町を大幅に改修し、天下にふさわしい城下町を作った。 ・家康から家光のころの間、武家諸法度に反したなどの理由で、全国の多くの大名が取りつぶされ、将軍の力はますます強くなった。 ・江戸幕府の仕組みは家光のころに確立し、安定した世の中をむかえた。	◆日光東照宮と江戸城の図から、将軍の権威の高さや江戸幕府の力の大きさを考えさせる。 ◆武家諸法度から、将軍が大名を統制するためにさまざまな取り決めを行ったことを読み取らせる。 ◆「江戸幕府のしくみ」の図から、大名、朝廷などの勢力を取り締まる仕組みになっていることを捉えさせる。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、徳川家光の政治と江戸幕府による大名統制の仕組みについて理解しているか」を評価する。
		江戸幕府は武家諸法度によって大名を統制し、日光東照宮や江戸城を整備して権力を確立した。②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③大名の取りしめりと参勤交代 P. 80～81 幕府は、どのようにして多くの大名を従えていたのでしょうか。 (1 時間)	○江戸幕府が全国の大名を従えるために、どのような仕組みを整えたかを調べ、話し合う。 ・家光が将軍のころ、参勤交代の制度が整えられた。大名は自分の城と領地を持っていたが、1 年おきに江戸の屋敷に住まわされ、将軍に服従の態度を示した。妻子は江戸での生活を強制された。 ・将軍は参勤交代の制度を利用して、全国の大名を従えることができた。 ・大名にとって、江戸での生活は多くの費用がかかった。 ・大名は将軍に命じられ、様々な土木工事の費用や労力を負担した。 ・参勤交代のために、幕府が五街道などを整備した結果、旅人や飛脚の行き来が増え、江戸の文化が各地に広がるきっかけとなった。 江戸幕府は、参勤交代の制度を定めて全国の大名を交代で江戸の屋敷に住まわせ、服属させることで権力を安定させた。 ③	◆加賀藩の参勤交代図から、大名が大勢の家来を引き連れて領地と江戸を行き来したことを捉えさせる。 ◆P. 79 で見た江戸図屏風を振り返り、江戸城のまわりに大名屋敷が集まっていたことにあらためて注目させる。 ◆薩摩藩と木曾三川の治水に関する文章から、大名がさまざまな土木工事の費用や労力を負担したことを理解させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、参勤交代の目的と大名に与えた影響について理解しているか」を評価する。
	④人々のくらしと身分 P. 82～83 江戸時代、人々は身分に応じて、どのようにくらししていたのでしょうか。 (1 時間)	○江戸時代の人々が身分に応じてどのようにくらししていたのかを調べ、話し合う。 ・江戸時代の社会は、さまざまな身分の人々によって構成されていた。 ・武士や町人は城下町に集められ、身分によって住む場所が決められた。 ・江戸時代の人口の80%以上は、百姓でしめられていた。 ・百姓は農村や山村、漁村に住み、収穫の半分にもなる重い年貢を納めたり、いろいろな力仕事をさせられたりした。 ・ほかにも皇族、公家、宗教者、芸能者など、さまざまな身分がみられた。また、厳しく差別された身分の人々もいた。 江戸幕府は、全国の人々を武士や百姓、町人などの身分として位置付け、くらしにみあった負担をさせた。 ④	◆資料 1 を読み取らせ、人々が身分に応じてさまざまな生活を営んでいたことに気づかせる。 ◆百姓が幕府や藩にさまざまな負担を行っていたことを理解させる。 ◆百姓が江戸時代を通じて農具を改良し、農業生産力を高めていったことを理解させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、江戸時代の身分制度と人々のくらしについて理解しているか」を評価する。
	⑤キリスト教の禁止と鎖国 P. 84～85 幕府は、どのようにしてキリスト教を禁止したのでしょうか。 (1 時間)	○江戸幕府が、どのようにキリスト教を禁止していったのか調べて話し合う。 ・幕府は初めのころ、外国との貿易をさかんにしようとしていたが、キリスト教信者が増え、幕府の命令に従わなくなれることを心配して、キリスト教を禁止するようになった。 ・幕府は島原・天草一揆を、大軍を送っておさえた後、絵踏みを取り入れ、キリスト教をいっそう厳しく取り締まるようになった。 ・幕府はキリスト教を徹底して排除するとともに、海外貿易の利益を独占した。 江戸幕府はキリスト教を厳しく取り締まり、貿易船の出入りを制限することによって、貿易を独占した。 ⑤	◆鎖国までの歩みについて調べ、わかったことを6の年表に書き込ませる。 ◆鎖国の間も、様々な形で外国との交流が行われていたことに気づかせる。 ◆鎖国のもとの交流が、長崎、琉球、蝦夷地、対馬で行われていたことを理解させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、キリスト教禁止の意味、鎖国のもとの我が国と外国との関係について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑥まとめる P. 86 江戸幕府が行った政治についてまとめ、当時の人々がどう思ったか考えましょう。 (1 時間)	○江戸幕府が政治を安定させるために、人々に対して行ったことを整理する。 [大名に対しての例] 日光東照宮や江戸城の建設を通じて幕府の力を見せつけながら、武家諸法度と参勤交代によって将軍に従わせた。 [百姓や町人などに対しての例] 身分に応じて異なる場所に住まわせたり、年貢や役などのさまざまな負担を行わせたりした。 [キリスト教の信者や外国の貿易船に対しての例] キリスト教を厳しく禁止するとともに、貿易相手の国と貿易の場所を限り、幕府が貿易を独占した。 ○江戸幕府の政治について、人々がどう思ったかを考える。 [外様大名の例] 1 年おきに江戸に住んで将軍に従うのは大変だ。領地で妻や子どもと一緒にくらしたい。 [百姓の例] 年貢や役の負担が大変だ。農具や肥料を改良して、農業の技術を高めよう。 [オランダの商人の例] 自分たちはキリスト教を広めないから貿易をひとりじめできる。でも、長崎の出島での貿易はとてもきゅうくつだなあ。 徳川家康が開いた江戸幕府は、武家諸法度により大名を統制し、参勤交代の制度や外交のあり方を定めて将軍権力を確立し、身分制に基づいて、武士による安定した政治を行うようになった。 ⑥	◆今まで調べたことを整理するとともに、それぞれの政策により、幕府の力がより強くなったことをおさえさせ、表現させる。 ◆江戸幕府の政治について人々がどのように思ったかを考えることを通じて、立場によって江戸幕府の政治に対する思いが違っていったことに気づかせる。	【知技②】 ノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、武士による政治が安定したことを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「江戸幕府の政治とさまざまな立場の人々の思いを関連付け、江戸幕府が世の中を安定させた方法を考え、表現しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や年表、その他の資料で調べ、この頃に栄えた町人の文化や新しい学問を生み出した人物の業績を考え、表現することを通して、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習してきたことを基に長い歴史を経て築かれてきた我が国の伝統や文化と今日の自分たちの生活との関わりを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や年表、その他の資料で調べ、歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、この頃に栄えた町人の文化や新しい学問を生み出した人物の業績を考え、適切に表現している。	①歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①江戸や大阪のまちと人々の暮らし P. 90～91 江戸や大阪のまちの様子やほかの資料をもとにして、当時の社会について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○江戸や大阪のまちの様子について資料をもとに調べ、話し合う。 ・江戸の両国橋付近は、橋の上、広場、川のどこも花火見物の人であふれかえり、とてもにぎやかだ。 ・大阪のまちは、経済の中心地として栄え、多くの物が江戸に運ばれた。 ・社会が安定するにつれて、武士以外にも学問や文化に親しむ人々が現れるようになった。 ・両国橋や芝居小屋にたくさんの人が集まっている。 ・浮世絵について、描き方や誰が買ったかが気になる。 ・蘭学や国学といった学問で活躍した杉田玄白や本居宣長はどんなことをしたのだろう。	◆江戸の両国橋付近の様子や大阪を出る船の様子を描いた図から、商業がさかんになり、江戸や大阪が栄えたことを捉えさせる。 ◆歌舞伎役者や葛飾北斎の浮世絵を見せて、浮世絵が多色刷りで美しく、高度な技術に基づいて描かれたことに気づかせる。 ◆このころ栄えた文化はそれまでの文化とはどう違うのか、蘭学や国学はどんな学問なのかなどの疑問を投げかける。	[思判表①] ノートの記事内容や発言内容から、「江戸や大阪のまちの様子や江戸時代の文化と学問に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 江戸時代の後半には、どのような新しい文化や学問が生まれ、人々の考え方にどのようなえいきょうをあたえたのでしょうか。 ○学習計画を立てる。		
調べる	②人々が歌舞伎や浮世絵を楽しむ P. 92～93 歌舞伎や浮世絵は、人々の間で、どのように親しまれていったのでしょうか。 (1 時間)	○近松門左衛門について調べ、歌舞伎が人々にどのように親しまれていったのか話し合う。 ・芝居見物は人々の大きな楽しみだった。 ・近松の作品は町人の生き生きとした姿や義理人情を描いた。 ・近松の作品は、現在でも様々な舞台上で上演されている。 ○歌川広重について調べ、浮世絵が人々にどのように親しまれたのか話し合う。 ・浮世絵は版面として大量に刷られ、多くの人が買い求めた。 ・「東海道五十三次」は、江戸からふるさとへのみやげとしても買い求められた。 ・19世紀後半には、浮世絵は海外でも鑑賞されるようになった。 人々は歌舞伎や人形浄瑠璃、浮世絵に親しみ、近松門左衛門や歌川広重のようなすぐれた作者が登場した。 ②	◆「人形浄瑠璃」の写真から、芝居が現在でも上演されていることを理解させる。 ◆「歌舞伎の広がり」の解説から、歌舞伎が地方に様々な形で広まり、今でも上演されている地方があることに気づかせる。 ◆「マネもゴッホも」から、浮世絵が日本だけでなく、海外でも親しまれている文化であることに気づかせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、歌舞伎や浮世絵が流行し、多くの人々に親しまれたことについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③新しい学問・蘭学 P. 94～95 蘭学は、どのような学問で、人々の考え方にどのようなえいきょうをあたえたのでしょうか。 (1 時間)	○二つの解剖図を比べたり、医学書を翻訳する際の苦労について調べたりする。 ・「解体新書」の図の方が正確である。 ・満足な辞典がないため、翻訳には大変苦労した。 ○江戸時代初期と伊能忠敬の日本地図を比べたり、忠敬の測量法を調べたりする。 ・忠敬の地図は、現代の日本地図とほとんど変わらず正確である。 ・忠敬は新しい天文学や測量術を学び、全国を測量した。 ・忠敬の作った地図は幕府によって秘密とされた。 ○蘭学が人々の考え方にあたえた影響について調べ話し合う。 ・医学のほかにもヨーロッパの地理学や天文学などを役立てようとする人々が現れた。 ・蘭学を学ぶうちに、幕府の政治を批判する人が現れるようになった。 江戸時代の後半になると、杉田玄白や伊能忠敬といった優れた学者が活躍し、医学や測量学などの蘭学が生まれ、多くの人々の間に広がった。③	◆杉田玄白らは人体の解剖に立ち会った際、オランダ語の解剖書の正確さに驚き、なんとしてもこれを翻訳しようと決意したことに気づかせる。 ◆伊能忠敬の日本地図と現在の日本地図を比較させ、どうしてこのような精密な地図を作ることができたのかを考えさせる。 ◆長久保赤水の地図と比べながら、伊能忠敬の地図が幕府によって秘密とされたことの意味を考えさせる。 ◆蘭学を学んだ人々が、どうして世界に目を向けて、政治や社会がこのままではいけないと考えるようになったのかを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、杉田玄白や伊能忠敬といった優れた学者の活動について理解しているか」を評価する。
	④国学の発展と新しい時代への動き P. 96～97 国学は、どのような学問なのでしょうか。また、新しい時代への動きは、どのようなものだったのでしょうか。 (1 時間)	○国学と本居宣長について調べ話し合う。 ・国学とは、仏教や儒教などが中国から伝わる前の日本人が持っていた考え方を研究する学問である。 ・本居宣長は「古事記」を研究し、「古事記伝」を完成させた。 ・本居宣長は同時代の社会や政治のあり方にも強い関心を持ち、藩主に意見書を提出した。 ・国学は江戸時代の後半、地方に広まり、社会に大きな影響をあたえた。 ○江戸時代後半の新しい動きについて調べる。 ・ききんや物価の上昇によって、百姓一揆や打ちこわしが全国各地で起きた。 ・新しい学問を学ぶ人や武士の中からも、幕府や藩を批判する人が現れた。 江戸時代の後半、本居宣長のような優れた学者が現れ、日本古来の思想を学ぼうとする国学が生まれ、多くの人々の間に広がった。このころききんなどで社会が不安定となり、百姓一揆や打ちこわしが各地で発生した。④	◆「宣長が藩主に出した意見書」から、宣長が同時代の社会や政治のあり方にも関心を持っていたことを理解させる。 ◆国学は幕末までに地方の人々の間に広まっていったことを理解させる。 ◆百姓一揆や打ちこわしが起こった原因が、ききんや物価の上昇によるものであったことを理解させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、江戸時代後半、国学が広まったことの意味と、社会が不安定になっていったことについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤まとめる P. 98	○近松門左衛門、杉田玄白、本居宣長がどのようなことをしたかをまとめ、説明する。 [近松門左衛門の例] 歴史上の物語や実際に起きた事件を題材にして、歌舞伎や人形浄瑠璃について約150編の脚本を書いた。 [杉田玄白の例] 人体の解剖を見学して、オランダ語の解剖図が正確に描かれていることに驚き、苦労して翻訳し、「解体新書」と名づけて出版した。 [本居宣長の例] 古い時代の日本人が持っていた考え方を明らかにするために「古事記」の研究にうちこみ、「古事記伝」を完成させた。	◆今まで調べたことを整理するとともに、この時代のすぐれた芸術家や学者の活躍が多くの人々に影響をあたえたことをおさえさせ、表現させる。	[思判表①] ノートの記述内容から、「調べた人物の業績を考え、適切に表現しているか」を評価する。
	江戸時代の後半の新しい文化や学問について調べてきたことを整理し、考えをまとめましょう。 (1時間)	○新しい文化や学問の広がりについて、人々がどう思ったか考え、ノートにまとめる。 [幕府] 学問の成果は幕府のために役立てることに役立て、幕府を批判する人たちは罰するべきだ。 [町人] 歌舞伎や浮世絵がさかんになって、生活に楽しみが増えた。 [百姓] ききんや物価上昇で生活が苦しくなっているのに、幕府は助けてくれないのかな。 江戸時代中ごろから、江戸や大阪などの都市を中心として、歌舞伎や浮世絵などに代表される町人文化が展開し、多くの人々の心をとらえると同時に、蘭学や国学などの新しい学問が生まれ、多くの人々の間に広がった。 ⑤	◆新しい文化や学問の広がりによって、人々のくらしや考え方が大きく変化したことをおさえさせ、表現させる。	[知技②] ノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、新しい文化や学問の広がりが、人々のくらしや考え方を変化させたことを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、表現することを通して、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて考え適切に表現している。	①黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。	②黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを関連付けたり総合したりして、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①江戸から明治へ P. 102～103 江戸から明治への変化について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○江戸時代末ごろと明治時代初めの日本橋近くの様子や、寺子屋と学校を比べ、変わったことを明らかにする。 ・服装・髪型・乗り物・建物・ガス灯の有無。 ・校舎の様子・先生の服装。 ・学び方など。 ○年表を活用して、江戸時代末から明治時代初めの20～30年くらいの間に社会全体に大きな変化があったことを確認し、学習問題をつくる。 ・「このような大きな変化に、どのような人々が関わったのかな。」 ・「もしかしたら、外国の文化や制度を取り入れたのかもしれないよ。」	◆観点を明確にししながら、江戸時代末と明治時代初頭の違いや変化を明らかにするように促す。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「世の中の様子の変化に着目して、学習問題を見出しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 明治維新では、どのような人々が、どのように世の中を変えていったのでしょうか。 ○予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・「江戸幕府を倒す人々が現れて、明治時代に活躍するのかな。」 ・「外国の文化や制度を取り入れて世の中を変えていったのかな。」		
調べる	②若い武士たちが幕府をたおす P. 104～105 明治維新を進めた人々は、どのような思いをもっていたのでしょうか。 (1 時間)	○「ペリーの来航」の絵やペリーの肖像画などから、江戸時代末に起こったことを明らかにする。 ・1853年に4世きの軍艦を率いてやってきた。 ・1854年に日米和親条約を結んで開国し、鎖国の状態が終わった。 ・1858年には日米修好通商条約を結んで、外国との貿易が始まった。 ・物価が急に上がって人々の不満が高まった。 ・長州藩や薩摩藩は外国と戦ったが、力の差が大きいことがわかった。 ○開国後に明治維新を進めた人々がどのような思いでどのような活動を行い、世の中がどのように変わったのかを明らかにする。 ・木戸孝允、大久保利通、西郷隆盛らは、新しい政府をつくる運動を始めた。 ・15代将軍徳川慶喜は、1867年に政権を朝廷に返した。 ・1868年、明治天皇の名で五箇条の御誓文を定め、新しい時代が始まった。	◆ペリー来航によってそれまでの日本の社会がどのように変わったのかを丁寧に読み取り、日本と外国との国力の差に気づかせるようにする。 ◆西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允や坂本龍馬の思いや働きと結びつけながら、新しい時代が始まったことを捉えさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、我が国が開国したことや、新しい政府が誕生したことについて理解しているか」を評価する。
		ペリーの来航によって開国をした我が国では、外国の力の大きさを実感した武士たちが、江戸幕府を倒して強い国づくりを進めようという思いをもって新しい政府をつくろうとした。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③大久保利通と明治新政府の改革 P. 106～107 欧米に学んだ大久保利通は、どのような国づくりを目指して改革を行ったのでしょうか。 (1 時間)	○新しい政府がどのように政治を進めようとしたのかを調べる。 ・政治の方針が日本中に広まるようにするために、廃藩置県を行った。 ・政治の中心となった大久保利通や木戸孝允らは、ヨーロッパの国々に追いつくために、工業をさかんにし、強い軍隊をもつこと（富国強兵）に力を入れた。 ○外国で学んだ大久保利通らが進めた改革を調べ、その理由を話し合う。 ・近代的な工業を始めるために、外国から機械を買い、技師を招いて国が運営する官営工場を開いた。（殖産興業） ・武士にかわり、訓練された近代的な軍隊をもつために徴兵令を出した。 ・国の収入を安定させるために、土地に対する税の仕組みを改めた。（地租改正） 新しい政府の中心となった大久保利通らは、欧米に負けない国づくりをめざし、工業の近代化と税収の安定による経済力の強化と軍事力の強化に力を入れた。 ③	◆資料を丁寧に読み取り、各政策の特色を具体的に捉えさせるようにする。 ◆富国強兵の意味を、殖産興業、徴兵令、地租改正との関係から捉えさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、明治政府が行った廃藩置県や殖産興業などの諸改革によって近代国家としての政治や社会の新たな仕組みが整えられてきたことを理解しているか」を評価する。
	④新しい世の中の文化や生活 P. 108～109 明治時代になって、人々の生活は、どのように変わっていったのでしょうか。 (1 時間)	○文明開化の意味を明らかにし、人々の生活の変化を調べる。 ・文明開化により、西洋から多くのことが紹介されたり取り入れられたりした。 ・新しい時代の学問を学び、それにふさわしい生き方や考え方に興味をもつ人が多くなった。 ・1871年には身分制度が変わり、国民は平等であるとされた。 ・1872年に学生が公布され、6歳以上の男女が学校に通うようになってきた。 ・鉄道が開通したり、郵便制度ができた、電信が始まったりした。 西洋の新しい考え方や制度・技術が取り入れられ、江戸時代の身分制度が改められた。また人々の生活が便利になる仕組みができた。 ④	◆資料 1 から福沢諭吉の考えを読み取り、江戸時代の身分制度と比較しながら変化を明らかにする。 ◆身分制度の他、多くの変化があったことを具体的に捉えさせ、新しい世の中の特色を明らかにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、我が国が明治維新を機に西洋の文化を取り入れたことを理解しているか」を評価する。
	⑤板垣退助と自由民権運動 P. 110～111 政府の改革に不満をもつ人々は、どのような行動をとったのでしょうか。 (1 時間)	○政府の改革に不満をもつ士族の行動を調べ、世の中の変化を明らかにする。 ・西郷隆盛を中心とする西南戦争などの士族による反乱が各地で起こったが、すべて政府によってしずめられた。 ・その後、言論で主張する世の中が変わった。 ○自由民権運動の特色を調べ、その成果を話し合う。 ・板垣退助らは国会開設を主張し、人々の間にも政治参加を求める声が出てきた。 ・国会を開き、憲法をつくることを求める動きは自由民権運動として各地に広がった。 ・政府は様々な条例を定めて政府批判につながる動きを厳しく取り締まったが、ついに1890年に国会を開くことを約束した。	◆例えば、身分制度による士族の立場を明らかにしながらその不満について考えさせ、反乱の意味とその結果を明らかにさせる。 ◆掲載されている資料を丁寧に読み取りながら、国会開設への国民の期待を捉えさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、自由民権運動が広がったことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		特権を奪われた武士たちは武力による反乱を起こしたが、やがて言論で主張する世の中へと変わり、板垣退助らが自由民権運動を広めて政府は国会開設を約束した。⑤		
	⑥伊藤博文と国会開設、大日本帝国憲法 P.112～113 伊藤博文は、どのような憲法をつくったのでしょうか。 (1 時間)	○大日本帝国憲法の発布や国会の開設に先立って行われたことを調べる。 ・板垣退助や大隈重信は、自由党や立憲改進黨といった政党をつくり、国民の意見を反映した政治を行う準備を始めた。 ・日本各地で様々な立場の人々が憲法の案をつくった。 ・伊藤博文はドイツで憲法を学び、内閣制度をつくった。また、初代内閣総理大臣に任じられ、憲法をつくる仕事に力を注いだ。 ○大日本帝国憲法や国会の特色を明らかにし、国の政治のあり方について話し合う。 ・1889年、天皇が国民にあたえるという形で大日本帝国憲法が発布された。 ・大日本帝国憲法は、天皇が主権をもち、軍隊を率いたり、条約を結んだりするのも天皇の権限とされていた。 ・国会は、貴族院と衆議院からなり、衆議院議員のみ国民の選挙で選ばれた。 ・選挙権は一定の税金を納めた25歳以上の男子のみにあたえられた。 ・1890年に第1回の国会が開かれた。 国会開設に備えて板垣退助や大隈重信らが政党をつくった。また伊藤博文らが中心となって大日本帝国憲法がつくられ、明治政府の基本的な国の治め方が定まった。⑥	◆例えば、第1回の国会までにどのようなことがあったのかを問い、そのための準備等を明らかにさせる。 ◆大日本帝国憲法の特色を、日本国憲法との比較を通して明らかにする。また、国会の仕組みや選挙権についても同様に行う。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国会の開設に備えて政党がつくられたことや大日本帝国憲法発布と国会開設によって近代的な国の体制が整えられたことを理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦まとめる P.114～115 調べたことをふり振り返り、明治維新での世の中の変化についてまとめましょう。 (1 時間)	○これまで調べてきたことを想起し、多くの人物が明治維新で様々なことを行ったことを年表にまとめる。 ※木戸孝允、大久保利通、板垣退助、西郷隆盛、伊藤博文らの業績を中心にまとめる。 ○明治維新でどのように世の中が変わったかについて話し合う。 ※国や社会の仕組みがどのように変わったのかという視点で話し合う。 ・「開国後、欧米に追いつくために、経済力と軍事力を強くしようとしました。富国強兵という政策でした。」 ・「工業をさかんにしたたり、徴兵令を定めたりしました。欧米から学んだことをいろいろと取り入れていました。」 など。 ○この時代の変化に最も大きな影響をあたえたと思う人物を一人選び、その理由を発表する。 ※人物が世の中の変化に与えた影響を自分なりの言葉で表現する。 ○学習してきたことをもとにして、どのような世の中がめざされていたのかを話し合い、自分の考えをノートにまとめる。	◆学習問題を確認し、特に「どのような人々が」「どのように」を明らかにさせるようにする。 ◆自分の考えをまとめる際には、「ことば」を大切にするとともに、例えば第2時に明らかになった「強い国づくり」が実現できたかどうかについて判断させる。	【思判表②】 年表やノートの記述内容から、「ペリーの来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを関連付けたり総合したりして、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、適切に表現しているか」を評価する。 【知技②】 年表やノートの記述内容から、「調べたことを年表や文などにまとめ、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		明治維新を進めた人々は、欧米の考え方や制度・技術を取り入れて、近代的な経済、軍事、社会、政治の仕組みを整えた。 ⑦		

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べてまとめ、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表などの資料で調べ、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて考え、適切に表現している。	①日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。	②日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、明治政府の意図や世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①条約改正を目指して P. 116～117 日本が江戸時代の終わりに結んだ条約はどのようなものだったのか話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○ノルマントン号事件の風刺画を見て話し合い、不平等条約の存在に気づく。 ○資料 3 を見て、条約の何が不平等なのか話し合う。 ・領事裁判権を認めている。 ・関税自主権がない。 ○不平等条約を改正するために、明治政府が行ったことを読み取る。 ・使節の派遣。 ・鹿鳴館の舞踏会。 ○読み取った資料からわかったこと、疑問に思ったことや予想などを出し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	◆何がどのように不平等だったのか、具体的に考えさせる。 ◆関税自主権がないということは、外国産の安い織物に関税がかけられないので大量に輸入される。領事裁判権がないということは、日本で罪を犯しても、日本で裁判にかけることができない。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「江戸時代の終わりにから明治時代にかけての日本を取り巻く世界の様子に着目して、学習問題を見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 日本が世界に歩み出す中で行った取り組みは、国内外にどのような変化をもたらしたのでしょうか。		
調べる	②発展していく日本 P. 118～119 この時代、日本はどのように国づくりを進め、世界に歩み出していったのでしょうか。 (1 時間)	○紡績工場と製糸工場の写真と、P. 116 の資料 2 の年表などを見比べながら、気づいたことを話し合う。 ・たくさんの女の人（工女）が働いている。 ・戦争を2回もしている。 ・富国強兵・殖産興業が成果を出している。 ○資料 3 「日本の西洋クラブへの仲間入りをえがいたまんが」などから気づいたことを話し合う。 ・産業が発展したから仲間入りできた。 ・欧米諸国は、日本の仲間入りをあまり歓迎していないように見える。 ○条約改正に向けた陸奥宗光の働きと、その頃の日本を取り巻く状況などを年表やグラフなどを関連づけて読み取る。 ・1894年にイギリスと交渉して領事裁判権をなくすことに成功した。 ・日清戦争の勝利が大きいと思う。 ・20年間で輸出入額が大幅に増えている。 明治政府の殖産興業政策によって日本の産業が発展していくなかで、陸奥宗光が領事裁判権の撤廃に成功した。②	◆1890 年から 1910 年代の年表から時代の流れを読み取らせる。 ◆前小単元で学習した明治政府の政策、富国強兵と殖産興業について想起させたい。 ◆紡績工場で働いている工女と P. 117 の資料 4 「鹿鳴館の舞踏会」の女性を比べて、同じ時代に置かれた状況の違いにも目を向け、今後どうなっていくかなどにも目が向くようにする。 ◆まなび方コーナーのグラフからつながって考えさせる。工場数の増加、輸出入額の増大の変化に隠された二つの戦争の意味についても考えさせたい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、明治政府の殖産興業政策による国づくりと陸奥宗光らによる条約改正交渉の進展とを結びつけて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③中国やロシアと戦う P. 120～121 二つの戦争によって、日本と世界の国々との関係は、どのように変わっていったのでしょうか。 (1 時間)	○「朝鮮をめぐる日本、ロシア、中国」の風刺画を見て、どんな様子を表しているのかを考え、朝鮮をめぐる三国の関係について話し合う。 ・三つの国は、朝鮮を取り合っていた。 ○教科書の地図や本文、グラフなどの資料などから、二つの戦争の様子や戦争の結果などを読み取り、話し合う。 ・日清戦争も日露戦争も朝鮮半島をめぐる戦いだった。 ・日清戦争では賠償金を得て、台湾を植民地にした。 ・日露戦争ではロシア艦隊を破り、樺太の南部と満州の鉄道を得た。 ・日露戦争では日清戦争よりも死者が多かった。 ・二つの戦争を通して、日本の力が欧米諸国に認められて、日本の国際的地位が向上した。 ・二つの戦争の勝利はアジアの国々を勇気づけた。 朝鮮半島や満州の支配をめぐる日清戦争・日露戦争が起こった。日本の勝利は欧米諸国に日本の力を認めさせ、アジアの国々を勇気づけることになった。 ③	◆風刺画と地図から、二つの戦争の原因は関連が深いことに気づかせる。 ◆P. 121 のグラフから、二つの戦争での戦死者数にも目を向けさせ、日本は戦争に勝ったものの、大きな損害を受けたことにも気づかせたい。 ◆二つの戦争の日本の勝利は、欧米列強に日本の国力の向上を認めさせるとともに、朝鮮半島を支配下に置くことを認めさせた戦争でもあったことに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日清・日露戦争の様子や、日本や世界に与えた影響について理解しているか」を評価する。
	④世界へ進出する日本 P. 122～123 世界の中での日本の立場は、どのように変わっていったのでしょうか。 (1 時間)	○P. 122の写真や地図、グラフを見て、戦争に勝った日本が朝鮮の人々にどのようなことを行い、朝鮮の人々はどのように思っていたかを考え話し合う。 ・朝鮮を植民地にした。 ・学校では、朝鮮の文化や歴史を教えることを厳しく制限した。 ・朝鮮の人々は粘り強く抵抗した。 ○戦争の勝利を背景に小村寿太郎が条約改正に成功し、関税自主権が回復されたことの意義を考える。 ・欧米諸国と対等になった。 ○科学や文化の面でも、世界で活躍する日本人が出てきたことを調べる。 ・新渡戸稲造は国際連盟の事務局次長を務めた。 ・北里柴三郎、野口英世らは、医学の発展に尽くし世界から高い評価を得た。 ・文学の世界では、夏目漱石、樋口一葉、与謝野晶子、正岡子規らが活躍した。 日本の植民地支配に対し、朝鮮の人々は独立運動を続けた。1911 年には、小村寿太郎が条約改正に成功し、関税自主権が回復された。また、医学などの研究で世界に認められる学者が現れ、日本の国際的地位の向上に貢献した。 ④	◆教科書の地図や写真、グラフから、朝鮮の人々が母国語を奪われ、日本語を学ばなければならなかったことに気づかせ、朝鮮の人々の思いや行動を考えるようにする。 ◆年表から日本の国力が充実してきたことと、それを背景とした小村寿太郎の活躍に気づかせる。 ◆医学などの研究の成果でも、世界に認められ、それが国力の充実や国際的地位の向上につながり、名実ともに世界に歩み出したことを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の世界への進出と国際的地位の向上や、その頃科学や医学などでも活躍していた人物の働きについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤生活や社会の変化 P. 124～125 産業の発展によって、人々の生活や社会はどのように変化したのでしょうか。 (1 時間)	○教科書の資料をもとに、産業の発展で人々の生活がどのように変わってきたのか調べて話し合う。 ・八幡製鉄所などの大きな工場ができて、重工業が発達したことがわかる。 ・電車やバスなどの交通機関が発達した。 ・ラジオも聞けるようになった。 ・洋服が普及してきた。 ・人々の生活は大きく変化してきた。 ○産業が発達する一方で、どのような問題が起こってきたか読み取り、話し合う。 ・足尾銅山などの公害問題が起こった。 ・よりよい生活を求めて民主主義運動が高まってきた。 ・衆議院議員の選挙権を25歳以上のすべての男子がもつようになった。 産業が発展し都市化が進む一方で、さまざまな社会問題が起きた。また、人々の民主主義への意識が高まり、普通選挙や女性の地位向上、差別撤廃を目指す運動が起こった。⑤	◆近代化が進みよい面もある一方で問題も出てきたことを理解する小单元である。写真資料など盛りだくさんなので、本文と関連させながら、項目ごとに整理させるとよい。 ◆よい面として、重工業の発達、ラジオ、交通網、洋服、選挙権などがあげられる。 ◆問題点として、公害問題などがあげられる。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の近代化や産業の発展にともなう国民生活の変化や民主主義への意識の高まりについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑥まとめる P. 126 日本が世界に歩み出す中で活やくした人物を整理し、どのようにこうけんしたか話し合いました。 (1 時間)	○学習問題について調べてきたことを人物カードに整理する。 ○カードに整理した人物から一人を選び、その人物が日本の国際的地位の向上に貢献したと思う点についてまとめ、意見交換する。 ・小村寿太郎：条約改正を達成し、欧米諸国と肩を並べたから。 ・野口英世：医学の面で世界に認められ、日本の国際的な地位を向上させたから。 ・東郷平八郎：日露戦争でロシア艦隊を破り、日本の力を欧米諸国に認めさせたから。 我が国の産業や科学・文化の発展と国力の充実にともなって、日清・日露戦争に勝利し、国際的地位が向上したことで、条約改正が達成されたが、他方で、産業の発展は人々の生活や社会に大きな変化をもたらした。⑥	◆それぞれの人物が何をしたのか、そのことには、どのような意義があったのかを考えさせカードを作成させる。 ◆カードにまとめた人物を一人選び、選んだ理由やどのように貢献したかについて、ノートやスライドなどにまとめて、意見交換させる。	【思判表②】 人物カードやノートの記述内容から、「日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを関連付けたり総合したりして、明治政府の意図や世の中の変化を考え、適切に表現しているか」を評価する。 【知技②】 人物カードやノートの記述内容から、「調べたことを人物カードやノートにまとめ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表などの資料で調べたり聞き取り調査をしたりして、年表やノートなどにまとめ、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことを考え、表現することを通して、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを手掛かりに、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、代表的な文化遺産などについて、地図や年表などの資料で調べたり聞き取り調査をしたりして、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを理解している。	①世の中の様子、代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて考え、適切に表現している。	①日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解している。	②日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民の生活が大きく変わったことを考えたり、学習してきたことを基に、歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①世界文化遺産の原爆ドーム P. 128～129 被爆前後の広島の写真や年表などの資料をもとに話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○3枚の原爆ドームの写真を比べて、気づいたことを話し合う。 ・まち全体が焼け野原になっている。 ・ドームも破壊されている。 ・どうしてこんなことになったのだろう。 ・原爆ドームはなぜ世界遺産になったのだろう。 ○原爆ドームが世界遺産になった理由を考えたり、長く続いた戦争や当時の人々の生活についてこれまでの学習をもとに話し合ったりして、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ・平和への思いがあったのではないか。 ・平和主義は日本国憲法の原則の一つだ。 ・世界に向けて平和を発信するシンボルになっているのではないか。	◆被爆前と被爆後、そして現在の写真を比較させ、一発の原子爆弾による被害の大きさについて考えさせる。 ◆年表から戦争が長く続いたことに気づかせるとともに、館長さんの話から、平和への思いを読み取らせ、当時の生活に関心をもたせて学習問題につなげる。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「長く続いた戦争が人々にどのような影響をあたえたのかに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「解決の見通しへの意欲や見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 長く続いた戦争は、社会や人々の生活にどのようなえいきょうをあたえたのでしょうか。 ○学習計画を立てる。 [調べること] ・戦争の始まりと経過 ・国民の生活はどのようなものだったか ・国内外の人々への影響	◆既習事項や経験をふまえて、この時代の様子や出来事をもとに学習計画を立てるようにする。	
調べる	②中国との戦争が広がる P. 130～131 日本が中国で行った戦争は、どのような戦争だったのでしょうか。 (1 時間)	○満州事変から日中戦争に至った経緯や戦争の広がりについて、資料や地図、本文などから読み取り、わかったことを話し合う。 ・不景気で生活が苦しくなっていた。 ・中国に勢力を伸ばして景気を回復しようという考えが広がった。 ・満州事変が起こり、中国各地に戦争が広がっていった。 人々が不景気に苦しむなかで、中国に日本の勢力をのばすことで景気を回復させようという考え方が広まった。満州にいた日本軍が中国軍を攻撃し、その後、戦争は中国各地に広がっていった。 ②	◆当時、世界中が不景気だったことをおさえる。 ◆本文や年表を確認しながら、地図で満州国、北京、南京という地名を確認し、中国各地への広がりを捉えさせる。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、我が国が中国各地において戦争を拡大していったことを読み取り、理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③戦争が世界に広がる P. 132～133 戦争は、どのように世界に広がっていったのでしょうか。 (1 時間)	○教科書の本文や地図、写真から、当時の世界の様子を調べ、戦争の広がりについて話し合う。 ・ドイツがまわりの国々を侵略し、イギリスやフランスと戦争になった。 ・アジアもヨーロッパも戦場となる第二次世界大戦となった。 ○教科書の地図や本文、写真、グラフなどの資料から、戦争の広がりを読み取り、話し合う。 ・石油などの資源確保のため東南アジアに軍隊を進めた。 ・ドイツ・イタリアと軍事同盟を結んだ。 ・東南アジアや太平洋を戦場にして争う太平洋戦争になった。 ・日本は、初めは勝利したが、だんだんと国力に勝るアメリカに敗戦を重ねた。 ・国民は政府の報道で「正しい戦争である」と信じて戦争に協力した。 戦争が世界に広がる中で、資源を得るために東南アジアに進出した日本は、やがて太平洋戦争に突入し、アメリカやイギリスなどと戦った。初めは勝利したが、だんだんと敗戦を重ねるようになった。 ③	◆地図から、日本はどのような地域に軍隊を進めたのか調べ東南アジアや広く太平洋の各地まで広がったことを捉えさせる。 ◆本文や写真から、戦場となったアジア・太平洋地域の人々に大きな影響を与えたことに気づかせる。 ◆グラフから日本とアメリカの生産力の差に気づかせ、日本が敗戦を重ねた理由を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、戦争がどのように世界に広がっていったのかを理解しているか」を評価する。
	④すべてが戦争のために P. 134～135 戦争中、人々は、どのような生活をしていましたのでしょうか。 (1 時間)	○写真、本文や表、各自で収集した資料などを活用して、戦争中の国民の生活の様子について調べ、話し合う。 ・人々を戦争に協力させるために、政府は戦時体制を強めていった。 ・くらしはすべて戦争のために制限され、戦争に協力しない行動は厳しく取り締まられた。 ・戦争協力を呼びかける看板や、戦争に協力する気持ちを高めるための標語がつけられた。 ・食料や衣類などは配給制となった。 国民を戦争に協力させるために、政府は戦時体制を強め、くらしはすべて戦争のために制限された。 ④	◆教科書の地図や写真、年表から、まちの様子、食事や衣類などの人々のくらしの様子、学校生活、勤労働員などに分けて気づいたことを整理させる。 ◆どうして当時、戦争一色になっていったのかを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「聞き取りをしたり資料を活用して調べたりしたことをノートや作品などに整理して、戦争中の国民生活の様子を理解しているか」を評価する。
	⑤空襲で日本の都市が焼かれる P. 136～137 日本各地の都市は、空襲によって、どのような被害を受けたのでしょうか。 (1 時間)	○東京大空襲の想像図や写真、地図や石碑、本文や聞き取り調査などからわかったことや考えたことを発表しあう。 ・1944年になるとアメリカ軍が日本の都市を空襲するようになった。 ・現在の太平洋ベルトと呼ばれる地域を中心に、全国各地が空襲の被害を受けた。 ・軍事施設や工場だけでなく、住宅地も爆撃され、焼け野原となった地域が多くあり、たくさんの命が奪われた。 ○「東京大空襲を体験した元木さんの話」から、空襲の被害について考えたことや思ったことを話し合う。 ・焼夷弾でまちが火の海となった。	◆空襲の様子の写真や映像などの視聴覚資料も活用して、視覚的にも被害の大きさを捉えさせる。 ◆防空壕や石碑など身近にある空襲や戦争に関する遺跡、戦争を体験した地域の人への聞き取りや、動画資料なども活用したい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、空襲により国民が大きな被害を受けたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		各都市の軍事施設や工場だけでなく、住宅地も爆撃され、東京や大阪をはじめ多くの都市が焼け野原になり、多くの命が奪われた。⑤		
	⑥原爆投下と戦争の終わり P. 138～139 戦争はどのようにして終わったのでしょうか。 (1 時間)	○写真や平和の礎、証言や本文などをもとに調べてわかったことや考えたことを話し合う。 ・1945年、アメリカ軍が沖縄に上陸し、その戦いに一般市民や今の中高生くらいの生徒までが動員された。 ○P. 128の広島、P. 139の長崎の原爆投下の写真や、玉音放送を聞く人々の写真を見て、わかったことや考えたことを話し合う。 ・日本は8月15日に降伏し、15年にもわたる戦争が終わった。 戦争末期、沖縄での激しい戦いで多くの人が亡くなり、広島・長崎には原子爆弾が投下されてたくさんの命が一瞬で奪われた。ついに日本は降伏し、15年にわたる長い戦争が終わった。⑥	◆沖縄戦や平和の礎、「ひめゆり」の生徒たちなどの写真をもとに、戦争による被害や人々の様子を具体的に捉えさせる。 ◆戦争の終わりを告げる玉音放送を人々はどのような思いで聞いたのか考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、情報を読み取り、戦争によって、沖縄の人々や原爆が投下された広島や長崎の人々をはじめ、国民が大きな被害を受けて戦争が終結したことを理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦まとめる P. 140 長く続いた戦争があたえたえいきょうについて、調べたことを整理して考えをまとめ、クラスで話し合いました。 (1 時間)	○戦争によってもたらされた影響について、これまで調べたことを整理する。 (例) ・戦場となった東南アジア各国の人々に大きな被害を与えた。 ・広島・長崎では一発の原子爆弾で一瞬にして何万人もの命が奪われた。 ・満州に渡った人々は終戦時にソ連が攻めてきて逃げ途中で多くの人が亡くなり、日本に帰れず、残留孤児となった人がいた。 ・日本で暮らしていた多くの国民は「正しい戦争」だと信じ、戦争のために多くの我慢を強いられてきた。 ○長く続いた戦争が国内外の多くの人々にあたえた影響について、自分の考えを書き、クラスで話し合う。 ・戦争は戦場で戦った兵士だけでなく、多くの国民の命を奪い、国民生活に大きな影響を与えた。 ・海外でも戦場となったので、アジアをはじめ多くの国の人々の命も奪った。 長く続いた戦争は、国民生活に大きな影響を及ぼし、国民や近隣諸国に大きな被害をもたらした。⑦	◆今まで学習してきたことを振り返って、思考ツール（マンダラチャート）の周りの枠それぞれの場所や立場における戦争がもたらした影響を書き込み、戦争による被害や影響について整理する。 ◆様々な立場の人々が戦争の犠牲になったことをふまえ、戦争に対する思いや考えを書くように助言する。 ◆政治学習で学んだ内容を振り返らせるようにしたい。	【思判表②】 ワークシートの記述内容や発言内容から、「これまで調べたことを比較し、関連付けたり総合したりして、戦争がもたらす被害の大きさについて考え、表現しているか」を評価する。 【知技②】 ワークシートの記述内容や発言内容から、「調べたことをワークシートにまとめ、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子などに着目して、地図や年表などの資料で調べ、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考え、表現することを通して、日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、歴史の学習を未来に生かそうとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子などについて、地図や年表などの資料で調べ、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを理解している。	①世の中の様子などに着目して、問いを見だし、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて考え、適切に表現している。	①日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。	②日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割について考えたり、学習してきたことを基に歴史を学ぶ意味について考えたりして、適切に表現している。	②学習したことを基に、我が国の課題やそのよりよい解決方法について考えようとしている。また、歴史の学習を未来に生かそうとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①終戦直後の人々の暮らし P. 142～143 写真から気づいたことや疑問を出し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○敗戦直後の資料から、気づいたことを話し合う。 ・多くの人々が家を焼かれ、家族を失い、食べ物や日々の暮らしに欠かせないものにも不自由する生活をしていた。 ○新宿の3枚の写真を比べて気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・1964年の東京オリンピック・パラリンピックのころにはかなり復興している。 ・現在の新宿はさらに発展している。今の日本になるまでにどのようなことがあったのだろうか。	◆「まなび方コーナー」で、複数の写真から読み取るポイントを確認させる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「戦後から現在までの世の中の様子の変化に着目して、学習問題を見出しているか」を評価する。
		学習問題 戦後の日本は、どのようにして生活を立て直し、現在の社会へと変化してきたのでしょうか。 ○年表をもとに予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・徐々に世界に認められる国になっていったのではないかな。 ・大きな自然災害も経験したけれど、その度に復興してきたのではないかな。	◆年表に書かれているできごとをもとに、日本はどのような国になってきたのかを考えさせる。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②民主主義による国を目指して P. 144～145 戦争の後、日本ではどのような改革が行われたのでしょうか。 (1 時間)	○戦後改革や日本国憲法について調べる。 ・民主主義の国家として再出発するために、戦後改革が行われた。 ・日本国憲法が制定され、平和と民主主義が日本の進む方向として定められた。 ○戦後改革について調べたことを年表にまとめ、「一言コメント」を書き込む。 ・20歳以上の男女に平等に選挙権が保障された。女性の国会議員も生まれた。 日本は、日本国憲法の制定をはじめとする戦後改革を行い、平和で民主的な国家として出発した。 ②	◆「一言コメント」には、それぞれの取り組み（できごと）の説明を書くようにさせる。 ◆年表と「一言コメント」をもとに、なぜ短い間にたくさんの改革が行われたのかを考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の戦後改革や民主的な国家としての再出発について理解しているか」を評価する。
	③再び世界の中へ P. 146～147 世界が変化する中、日本はどのようにして復興したのでしょうか。 (1 時間)	○第二次世界大戦後の世界の動きを調べる。 ・第二次世界大戦後、国際社会の平和を守るため、国際連合がつくられた。 ・アメリカとソ連の対立が深まり、世界が二つの陣営に分かれて対立し始めた。 ○「サンフランシスコ平和条約」や「国際連合への加盟」「産業の復興」を中心に、日本の復興への道のりを年表にまとめ、背景を話し合う。 ・1951年に48か国と平和条約を結んだ。 ・アメリカの協力や国民の努力によって産業が復興し、生活が向上した。 日本は、サンフランシスコ平和条約を結んで主権を回復し、国際連合への加盟も認められたことによって国際社会に復帰することができた。その後、アメリカの協力や国民の努力によって産業が復興し、生活が向上した。 ③	◆教科書の巻末年表や写真、地図などを活用して、日本の独立までの概要を捉えさせる。 ◆電化製品の普及率のグラフを読み取らせ、産業の復興や生活の向上と関連させて考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の国際社会への復帰の過程や、産業の復興と生活の向上について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④高度経済成長の中の東京オリンピック・パラリンピック P. 148～149 産業の発展により、人々の生活はどのように変化したのでしょうか。 (1 時間)	○東京オリンピック・パラリンピックの開催とそれに関連するできごとを調べる。 ・高速道路や地下鉄が新たにつくられた。 ・東京と大阪の間には、東海道新幹線がつくられた。 ○東京オリンピック・パラリンピック開催前後の国民生活の変化について調べる。 ・三種の神器にかわり、3C（カー、クーラー、カラーテレビ）が多くの家庭に広まった。 ・高度経済成長のかげで、公害などの環境問題が生まれてきた。 東京オリンピック・パラリンピックの開催は国民に自信をあたえるとともに、産業をさらに発展させるきっかけとなった。一方、経済の高度成長のかげで公害などの環境問題が起こった。④	◆東京オリンピック・パラリンピックの開催が国民にとってどのような意味をもっていたのかを考えさせる。 ◆どのような場所で公害が発生したのかについて、5年生の学習を想起させて考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、東京オリンピック・パラリンピックの開催や、公害などの環境問題の発生について理解しているか」を評価する。
	⑤変化の中の日本 P. 150～151 世界や日本には、どのような課題が生じているのでしょうか。 (1 時間)	○冷戦後の世界の課題を調べる。 ・アメリカ側とソ連側に分かれた世界的な対立（冷戦）は、1989年に終わった。 ・一方、世界各地で地域紛争が起こり、国際連合を中心に解決のための努力が続けられている。 ○高度経済成長後の日本の課題を調べる。 ・少子高齢化が急速に進んでいる。 ・大きな自然災害があいついで発生している。 ○課題に対する取り組みを調べ、自分たちにできることを考える。 ・地域や社会の課題に積極的に関わっていくことが大切である。 世界や日本が変化する中で、解決しなければならない課題が多く出てきた。地域や社会の課題に、わたしたちひとりひとりが積極的に関わっていくことが求められている。⑤	◆さまざまな資料を用いることで、課題に気づかせるとともに、それに対するさまざまな取り組みがなされていることを捉えさせたい。 ◆世界の課題を調べることで、「政治・国際編」の「世界の未来と日本の役割」の学習につなげたい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、世界と日本の課題とそれに対する取り組みについて理解しているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習を振り返ったり見直したりして、日本や世界の課題を追究しようとしているか」を評価する。
	⑥これからの日本を考えよう P. 152～153 これからの日本は、どのような国を目指しているのでしょうか。 (1 時間)	○世界に広がる日本の文化や技術を調べる。 ・和食やアニメなどの文化やさまざまな技術が世界で認められ、世界に貢献している。 ○現在の日本が抱える課題や果たすべき役割について調べ、考えたことを話し合う。 日本の文化や技術は、世界で認められ、さまざまな面で世界に貢献している。防災をはじめ、少子高齢化、人権、領土などの課題をどのように解決していくかを考えていくことが必要である。⑥	◆日本のよさと課題の両面から、これからの日本のあり方を考えさせる。 ◆児童の生活経験や関心の傾向などを考慮して、話し合う話題を設定するようにする。	【態度②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習してきたことをもとに、日本が抱える課題をどのように解決したらよいのかについて、自分との関わりの中で考えようとしているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦まとめる P. 154～155	○調べてきたことを年表にまとめ、一言コメントを書く。 ・ 1946年：日本国憲法が公布される。 「新しい憲法に、平和と民主主義が日本の新しく進む方向であると定められました。」 ・ 1964年：東京オリンピック・パラリンピックが開かれる。 「1964年の東京オリンピック・パラリンピックの成功は、日本の産業を発展させるきっかけとなりました。」 ○現在の社会に重要な影響を与えたできごとを一つ選び、その影響を文章にした上で、友達と話し合う。 ・ 「わたしは日本国憲法の公布を選びました。なぜなら、日本国憲法は現在の平和と民主主義の考え方のもとになっているからです。」 ・ 「わたしは東日本大震災を選びました。なぜなら、震災からの復旧・復興に向けた取り組みが進められる中で、災害に強いまちづくりやエネルギー問題などへの人々の関心が高まり、社会のあり方が変わったからです。」	◆年表を見て、それぞれのできごとによって社会の様子がどのように変わってきたのかを考え、一言コメントを書くようにさせる。 ◆選んだできごとが現在にどのような影響をあたえているのかを考えることで、学習問題に迫りたい。	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを年表にまとめ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容や発言内容から、「我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割について考え、適切に表現しているか」を評価する。
	戦後の日本の変化について調べたことを整理し、重要だと思われるできごとを選んで話し合いましょう。 (1 時間)	戦後の日本は、さまざまな戦後改革を行って、平和で民主的な国家として出発した。そして、経済・産業の発展によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきた。しかし、世界と日本にはまだ課題もある。 ⑦		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす	①過去に学び、未来に生かす P. 156～157	○カードを使って、歴史の学習をふり返る。 ・米づくりが始まり、生活や社会の様子が変化した。 ・聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりが受けつがれ、進められていった。など。 ○学んできた歴史について、わかったことや未来に生かせると思うことを、自分の視点を一つ決めて考え、話し合う。 ・「外国から伝わってきたものや、外国のものを参考にしてつくられた制度があったね。海外とつながりを持つことは大切だと思います。」 ・「日本の文化は、長い時間をかけて築き上げられてきたんだね。今に伝わる様々な文化を、大事に受けついでいきたいと思います。」など。 ○歴史を学んでわかったことや考えたことについて意見文を書く。 ・今の社会の課題に取り組んでいくためには、過去に何が起こったかを知っておくことが大切である。 ・長い時間をかけて昔の人々が築き上げてきた日本の歴史を受けつぎ、自分たちの力で社会をよりよくしていきたい。その手がかかりを、これからも歴史の中に探していきたい。 歴史上の人物や文化遺産の学習を通して、当時の人々の思いや社会の状況を読み取ることができるとともに、現在や未来の社会のあり方を考えていく手がかかりを得ることができる。	◆カードを見て、社会の様子がどのように変わってきたのかを考え、時代の変化を捉えさせる。 ◆話し合いを通して、歴史を学ぶ意味に目が向くようにする。	【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、歴史を学ぶ意味を考え、適切に表現しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、歴史を学ぶ意味について考え、歴史の学習を未来に生かそうとしているか」を評価する。
	歴史の学習をふり返り、学んだことをどのように未来に生かせるかを考えましょう。 (1 時間)			

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	①人類共通の願い P. 60～61 わたしたち人類は、どのような共通の願いをもっているのでしょうか。 (1時間)	○国際社会が抱える問題の解決に向け、わたしたちが、世界の人たちとどのようなことをしていけばよいのかを話し合う。 ・さまざまな問題の解決に向けて、世界の人たちと協力していく必要があるのではないか。 単元のめあて わたしたちは、どのようにして、世界の人々とともに生き、平和な社会を築いていけばよいのでしょうか。	◆ニュースなどで見聞きしたことをもとに話し合わせる。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「国際社会について関心を高めているか」を評価する。

目標

グローバル化する世界の日本の役割について、外国の人々の生活の様子などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現することを通して、我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活は、多様であることや、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①外国の人々の生活の様子などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、日本の文化や習慣との違いを理解している。	①外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見だし、日本の文化や習慣との違いについて考え、適切に表現している。	①外国の人々の生活の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国々の人々の生活は、多様であることや、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解している。	②世界の国々の文化や習慣は多様であることとスポーツや文化などを通して他国と交流することに関連付けて、国際交流の果たす役割を考えたり、学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えたり選択・判断したりして、適切に表現している。	②学習したことを基に世界の人々と共に生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本と関係の深い国を探そう P. 62～63 これまでの学習や日ごろの生活をふり返り、日本とつながりの深い国を見つけて、話し合いました。 (1 時間)	○外国から入ってきた身のまわりのものや文化やスポーツを通じた交流について話し合う。 ・日本人の野球選手が、アメリカの大リーグで活躍している。 ・日本の文化は、昔から中国の影響を受けていた。 ・富岡製糸場はフランスから来た技術者に支えられていた。 ・日本にブラジルから来ている人がたくさんいる。 ○日本と関係が深そうな国を四つに整理する。 日本は、ものや人の行き来や、文化やスポーツなどの交流を通して、世界のさまざまな国とつながりをもっている。①	◆生活経験やこれまでの学習経験をもとに、日本と関係がある国との関わり方を出させ、自分の生活が外国と関わりがあることに気づかせる。 ◆世界の国々について知っていることを発言し、日本とのつながりを意識しながら、調べたいことを見つけさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本と外国との共通点、相違点について理解しているか」を評価する。
	②調べる国を決めよう P. 64～65 学習問題をつくり、日本とつながりの深い国を1か国選び、人々の生活について調べる学習計画を立てましょう。 (1 時間)	○4か国の基本情報を整理し、日本とつながりの深い国々について調べてみたいことを話し合い、学習問題をつくり、予想を出し合う。 ・気候や宗教によって、服装や食べ物が違ってくるのではないかな。 ・遠い国でも、産業、文化、スポーツなどでつながりが深いかもしれない。 ・中国は歴史的に関わりが深いから、似ている点が多いのではないかな。	◆関わりが深い国の中から、自分で調べたい国を一つ選ぶとき、似ている点や違っている点を探すように見通しをもたせるようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「外国の人々の生活の様子などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 [態度①] ノート、学習計画表の内容や発言内容から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 日本とつながりの深い国の人々は、どのような生活をしていて、その生活には日本とどのようなちがいがいるのでしょうか。 ○学習問題について予想し、学習計画を立てる。		
児童に4か国から1か国を選択させる。				
アメリカと日本 P. 66～71				
調べる	③アメリカの学校の様子 P. 66～67 アメリカの小学生はどのような生活をしているのでしょうか。 (1 時間)	○アメリカの学校の様子について、テレビ電話でアメリカに住んでいる人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして調べる。 ・小学校への通学は、自転車やスクールバスなどを利用し、成績がよい場合は飛び級制度がある。 ・いろいろな民族や文化が違う子どもが通っている。 ・夏休みが2か月あって、日本よりも長い。 アメリカの学校と日本の学校では同じ点やちがう点がある。能力によって飛び級ができたり、いろいろな人種や民族の子どもがいたりする。③	◆日本の学校生活と比較させながら、似ている点や違う点を意識して調べさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、アメリカの学校生活の様子について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④人々の生活と年中行事 P. 68～69 アメリカの人々のくらしや年中行事は、どのようなものでしょうか。 (1 時間)	○アメリカの人々の休日の過ごし方や年中行事について調べ、話し合う。 ・休日に、家族でハイキングに行ったり、野球の試合を見たりして過ごしている。 ・ハロウィンには仮装をしてお菓子をもらったり感謝祭では家族でごちそうを食べたりしている。 アメリカでは国土が広いため、車で出かけることが多く、家族や親戚で集まってさまざまな年中行事を祝う習慣がある。また、スポーツや産業で日本にも影響を与えている。④	◆休日の過ごし方や年中行事について、自分たちの様子と比べながら調べさせる。 ◆アメリカの文化やスポーツが世界に影響を与えていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、アメリカの人々のくらしや年中行事について理解しているか」を評価する。
	⑤広い国土を生かした産業と多文化社会 P. 70～71 アメリカにはどのような産業があり、どのような人々がくらししているのでしょうか。 (1 時間)	○アメリカの産業や多文化社会について、集めた資料を活用して調べ、話し合う。 ・広い国土を生かして、小麦や大豆を大量に生産していて、日本と違う。 ・多文化社会と言われ、ロサンゼルスには日系人が多く住んでいて、日系人の祭りがある。 ○アメリカについて調べてきたことを、カードに整理する。 ・学校や人々の様子、仕事や産業の様子について調べたことをカードに整理する。 アメリカは、広い国土を利用して農業、工業、宇宙開発など世界をリードしている。また、建国以来、多くの移民を受け入れてきた多文化社会である。⑤	◆広い国土をもつアメリカは、さまざまな人種や民族の人が移住してきた多文化社会であることを資料からとらえさせる。 ◆アメリカの文化にはどのような特色があるのかをとらえさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、アメリカの産業やどのような人々がくらしについて理解しているか」を評価する。
中国と日本 P. 72～77				
	③中国の人々の生活と学校の様子 P. 72～73 中国のまちや小学校の様子は、どのようなになっているのでしょうか。 (1 時間)	○中国のまちや小学校の様子について、集めた資料を活用して調べ、話し合う。 ・ペキンには、高層ビルや世界文化遺産があり、ファッションも日本と同じように楽しんでいるが、古い家も残っている。 ・「一人っ子政策」の影響で、兄弟がいない子どもも多い。 ・都市では受験に熱心である。 中国の人々の生活や小学校の様子には、日本と同じ点やちがう点がある。卓球は子どもたちに人気の遊びの一つである。③	◆収集した資料から、日本との相違点について整理させる。 ◆日本の学校生活と比べてどのような違いがあるのかに着目して考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、中国のまちや小学校の様子について理解しているか」を評価する。
	④中国の伝統的な文化 P. 74～75 中国には、どのような文化や行事があるのでしょうか。 (1 時間)	○中国の文化や行事について、収集した資料を活用して調べ、話し合う。 ・中国には50以上の民族がいて、服装や習慣などの生活様式がそれぞれ違う。 ・伝統的な行事である春節は、日本の正月にあたる。故郷に帰省する人も多い。日本にも、横浜や神戸に中華街や南京町があり、春節の行事を盛大に行っている。 中国の伝統的な行事には、日本と同じ点やちがう点がある。また、日本の文化の中には中国の影響を受けているものもある。④	◆第5学年の産業の学習や第6学年の歴史の学習を想起させ、日本との結びつきについて、歴史や文化、人の行き来など、多面的にとらえさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、中国の文化や行事などについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤経済が発展した中国と人々の生活 P. 76～77 中国の経済の発展によって、人々の生活は、どのように変化したのでしょうか。 (1 時間)	○経済の発展による中国の人々の生活の変化について調べ、話し合う。 ・自動運転などの先端技術が取り入れられたスマートシティと呼ばれる都市がある。 ○中国について調べてきたことを、説明文としてまとめる。 ・日本にとって大切な隣国である。 ・中国のよさを見つめたい。 中国は、経済発展を続け、日本との結びつきが強まっている。また、世界から中国の発展が注目されている。 ⑤	◆中国の経済発展は、人々にどのような影響を与えたのかに着目して考えさせる。 ◆聞き取り調査を実施できた場合は、そこで得たことを生かしてまとめさせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、中国の経済の発展によって、人々の生活はどのように変化したかなどを理解しているか」を評価する。
フランスと日本 P. 78～83				
	③フランスの学校の様子 P. 78～79 フランスの小学生はどのような生活をしているのでしょうか。 (1 時間)	○フランスの学校の様子について、オンラインでフランスに住んでいる人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして調べる。 ・小学校に5年間、中学校に4年間通う。 ・ケルメスという学校のお祭りがあり、お店が開かれたり、みんなで踊ったりする。 ・ビズと呼ばれるあいさつの仕方があって、マナーに気を付けている。 フランスの学校と日本の学校では同じ点やちがう点がある。学校のお祭りがあったり、放課後に乗馬やフェンシングを習う子がいたりする。 ③	◆日本の学校生活と比較させながら、似ている点や違う点を意識して調べさせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、フランスの小学生の生活の様子について理解しているか」を評価する。
	④フランスの人々の生活の様子 P. 80～81 フランスの人々のくらしは、どのようなものなのでしょうか。 (1 時間)	○フランスの人々の生活の様子について知り合いに聞いたり本で調べたりして、メモに整理する。 ・マルシェと呼ばれる市場や、ブロカントと呼ばれる小道具市で買い物を楽しむ。 ・美味しいパンやチーズがたくさんあり、地方には古いしっかりした石づくりの家がある。 ・植民地だったアフリカや中東からの移民が多く、公共の場では特定の宗教を表に出さない。 フランスでは、市場や商店が賑やかで、大きな都会と田舎では異なるくらしがある。植民地だった国からの移民が多い。 ④	◆買い物や建物の様子について、自分たちの様子と比べながら調べさせる。 ◆多くの移民がいること、いくつかの宗教があることに気づかせる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、フランスの人々のくらしについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤農業と観光業が さかんなフランス P. 82～83 フランスでは、 どのような産業 がさかんなので しょうか。 (1 時間)	○フランスの農業や観光業について、集めた資料を活用して調べ、話し合う。 ・農業がさかんで国土の50%以上が農業用地。バターやチーズなどを輸出している。 ・美しい城や美術館があり、観光客がたくさん訪れる。 ・日本とは絹織物のつながりがある。 ○フランスについて調べてきたことを、新聞にまとめる。 フランスでは、農業がさかんで食料自給率が高く、また田舎には美しい古城や美術館などがあり観光もさかんである。⑤	◆食料自給率が高いこと、小麦などの作物やバターやチーズなどの加工品を輸出していることを調べさせる。 ◆観光客が多く集まる理由を、資料から推測して話し合わせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、フランスにはどのような産業があるのかについて理解しているか」を評価する。
	ブラジルと日本 P. 84～89			
	③ブラジルの学校の様子 P. 84～85 ブラジルの小学生は、どのような生活をしているのでしょうか。 (1 時間)	○ブラジルの学校の様子について、日本に住んでいるブラジルの人に質問をしたり、集めた資料を活用したりして調べる。 ・南半球にあるブラジルは日本と季節が逆で2月に新学期が始まる。 ・ブンバ・メウ・ボイというお祭りやクカの伝説がある。 ・カーニバルのお祭りでは、先住民族や移民の文化が合わさったダンスや衣装を見ることができる。 ブラジルの学校と日本の学校では同じ点やちがう点がある。放課後にサッカーをして遊んだり、サンバの踊りを習いに行ったりする子もいる。また、ブラジルでは伝説や民話が大切にされている。③	◆日本の学校生活と比較させながら、似ている点や違う点を意識して調べさせる。 ◆伝説や民話が生活の中に位置づいていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ブラジルの小学生の生活の様子について理解しているか」を評価する。
	④大都市とアマゾンの様子 P. 86～87 ブラジルの人々のくらしはどのようなもの でしょうか。 (1 時間)	○大都市とアマゾンの様子についてオンラインで知り合いに聞いたり本で調べたりして、ノートに整理する。 ・大都市のサンパウロに、リベルダーデと呼ばれる東洋人街がある。 ・ブラジルに渡った日本人とその子孫の日系人が多くいて、農業の発展に貢献してきた。 ・世界最大の熱帯林があり、アマゾンの森は生命のゆりかごと呼ばれるが、木材の輸出などにより森林が減っている。 ブラジルでは、大きな都会と自然が多い地域では異なるくらしをしている。日系移民や先住民族の生活や文化がある。④	◆大都市やアマゾンの様子について、自分たちの様子と比べながら調べさせる。 ◆日本からの移民の歴史や日系人の様子について調べさせ、ブラジル社会での貢献に気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ブラジルの人々のくらしについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤日本とかかわりが深い産業 P. 88～89 ブラジルでは、どのような産業がさかんのでしょうか。 (1 時間)	○ブラジルの産業について、ブラジルの人に質問し、集めた資料を活用して調べ、話し合う。 ・日本はブラジルから鉄鉱石、コーヒー豆、鳥肉などを輸入している。 ・コーヒーの主要な生産国である。 ・植物から生産されるバイオエタノールを燃料として活用することが進んでいる。 ○ブラジルについて調べてきたことをノートにまとめる。 ・学校や人々の様子、大都市とアマゾンの違い、産業の様子などについて整理する。 ブラジルは、資源が豊富で鉄鉱石を多く採掘して輸出し、また肉や農産物も日本に輸出している。⑤	◆インタビューや資料から、豊かな資源や土地を活用した産業が発展していることをとらえさせる。 ◆資料から日本とブラジルの貿易の特徴をつかませる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ブラジルにはどのような産業があるのかについて理解しているか」を評価する。
調べる	⑥いろいろな国際交流 P. 90～91 国際交流にはどのような役割があるのでしょうか。 (1 時間)	○調べた国と日本の交流について話し合う。 ・姉妹都市として交流活動をしている。 ・中華街では獅子舞が披露されることを留学生から聞いた。 ・日本各地に国際交流協会があり、交流活動をしている。 ・オリンピックやパラリンピック、世界大会など、スポーツの交流がさかん。 ○国際交流の役割について話し合う。 スポーツや文化を通じて他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重しあうことが大切である。⑥	◆調べた国と日本の交流だけではなく、見たことや参加したことがある国際交流について話し合い、国際交流のよさに気づかせる。	[思判表①] ノートの記述内容から、「国際交流のあり方や役割について考えをまとめているか」を評価する。 [態度②] ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習内容を振り返り、異なる文化や習慣を尊重する気持ちをもっているか」を評価する。
まとめる	⑦まとめる P. 92～93 調べてきたことをもとに日本とつながりの深い国について話し合い、自分の考えをまとめましょう。 (1 時間)	○学習問題について調べてきたことを話し合う。 ・学校生活では、四つの国とも日本と似ているところや違うところがある。 ・調べてきた国は、どの国も産業などでつながりが深い。 ○日本と似ているところと、大きく違うところを表に整理して、話し合う。 ・学校の新学期が始まる時期が違う。 ・ブラジルでは都会とアマゾンの生活がかなり違う。 ○学習問題について、考えたことを意見文にまとめ、発表する。 ・どの国も伝統的な行事を大切にしている。 ・異なる習慣や文化も、認め合うことが大切である。 日本と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活は多様であり、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重しあうことが大切である。⑦	◆今まで調べたことを整理するとともに、話し合いを通じて、それぞれの国には日本とのつながりがあり、またそれぞれ異なる特色があることに気づかせる。 ◆意見文の発表会を開くなどして、外国の人々とともに生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることをとらえ、実感させる。	[知技②] ノートの記述内容から、「調べたことを表に整理し、日本と経済や文化などの面でつながりの深い国の人々の生活は多様であること、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、世界の国々の文化や習慣は多様であることと、スポーツや文化などを通して他国と交流することを関連づけ、国際交流の果たす役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。

目標

グローバル化する世界と日本の役割について、地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を捉え、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現することを通して、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子を理解している。	①地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、問いを見だし、国際連合の働きや我が国の国際協力の様子について考え、適切に表現している。	①国際社会において我が国が果たしている役割について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解している。	②地球規模で発生している課題の解決策と我が国の国際協力の様子を関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を考えたり、学習したことを基に今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたりして、適切に表現している。	②学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①SDGsの達成に向けて P. 96～97 世界のさまざまな課題と解決に向けた取り組みを調べ、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○SDGsと世界で起こっている課題について調べる。 ・SDGsは2030年までに解決を目指す17の目標と169の具体的な取り組みが設定されている。 ・「だれひとり取り残さない」という理念のもとに設定された目標である。 ・世界には教育、貧困など、解決しなくてはならない課題がある。 ・地域紛争が世界各地で起こっている。 ○世界にどのような課題があるのかを明らかにし、これらを解決するための取り組みについて調べるための学習問題をつくる。 ・歴史の学習で学んだ国際連合が何か取り組みをしているかもしれない。	◆SDGs について、目標を一つ取り上げ、その目標が目指しているものは何かを考えさせる。 ◆多様な課題があることを明らかにするとともに、既習事項である国際連合と関連づけて解決のあり方の予想につなげていく。	[思判表①] ノートの記述内容などから、「地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、学習問題を見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容などから、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 世界のさまざまな課題を解決するために、日本は世界と協力して、どのような活動をしているのでしょうか。		
		○学習問題の解決に向け、国際連合の働きや海外で活躍する日本人々について予想し、学習計画を立てる。		
調べる	②国際連合で働く人々 P. 98～99 国際連合は、どのような活動をしているのでしょうか。 (1 時間)	○国際連合やユニセフの取り組みや、日本との関わりについて調べる。 ・日本は、1956（昭和31）年に加盟し、大きな役割を果たしている。 ・日本は、国際連合の一員として世界各地の平和維持活動に参加してきた。 ----- 国際連合では多くの国々が協力して平和と安全、人類の福祉のために活動しており、日本人々もさまざまな活躍をしている。 ②	◆「ことば」や国際連合憲章を丁寧に読み取り、特に日本の役割に着目させていくようにする。 ◆国連の平和維持活動については、自衛隊の活動にも着目させる。	[知技①] ノートの記述内容などから、「必要な情報を集め、読み取り、国際連合の役割や我が国の国際連合の一員としての活動について理解しているか」を評価する。
	③地球の環境を守るために P. 100～101 地球の環境を守るために、世界や日本はどのような努力や協力をしているのでしょうか。 (1 時間)	○世界で起きている環境問題について調べる。 ・世界各地で環境問題が起きていることがわかる。 ・海洋プラスチック問題のように環境を破壊し、海洋生物の命を奪う問題も起こっている。 ○「持続可能な開発目標（SDGs）」について調べ、持続可能な社会を実現するための取り組みについて理解する。 ・カーボンニュートラルや再生可能エネルギーなど環境のことを考えた取り組みが進められている。 ・未来にわたってより多くの人々が豊かな生活を送るためには、国連や国際会議などの計画にもとづいた国際的な協力が必要である。 ----- 地球環境の悪化を防ぎ、持続可能な社会を実現するために、世界や日本には現地の人々と協力して環境保全に努めている多くの人々がいる。 ③	◆P. 101 の資料を読み取らせて、さまざまな環境問題があることをとらえさせ、これらを解決する必要があると感じさせるようにする。 ◆世界各地の環境問題について様々な人の立場になり考えることで、遠く離れた場所であっても、私たちにつながることを気づかせたい。	[知技①] ノートの記述内容などから、「必要な情報を集め、読み取り、我が国は国際連合の一員として重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。 [思判表①] ノートの記述内容などから、「地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力について考え、自分の考えをまとめているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④国際協力の分野で活やくする人々 P. 102～103 日本は、どのような国際協力の活動をしているのでしょうか。 (1 時間)	○ODAや青年海外協力隊、NGOの具体的な取り組みを調べる。 ・ ODAとは政府による国際協力の活動である。青年海外協力隊の活動はODAの活動の一つである。 ・ 日本にも、医療や環境など、専門性を生かした分野で活躍している多くの団体があり、世界各地でさまざまな国際協力の活動を行っている。 日本の NGO や青年海外協力隊は、支援を必要としている多くの国々の人々のために、教育、衛生、農業などの分野で活躍をしている。 ④	◆「セネガルで活動した清水さんの話」を丁寧に読み取らせ、青年海外協力隊の取り組みの意味を考えさせる。 ◆NGO レポートを丁寧に読み取らせ、中村哲氏の活動の意味をとらえさせる。	[知技①] ノートの記事内容などから、「必要な情報を集め、読み取り、我が国は様々な分野で技術者を海外に派遣したり、海外から働く人々を受け入れたりしていることを理解しているか」を評価する。
まとめる	⑤まとめる P. 104～105 世界の様々な課題と、解決のための日本の取り組みについてまとめ、発表しましょう。 (1 時間)	○これまでに調べたさまざまな機関や、それに携わる日本の人々が世界のさまざまな課題を解決するために取り組んでいることを想起してその意味や役割を話し合う。 ○自分の考えをノートにまとめ、発表する。 世界には解決すべき課題がいくつもあり、日本の人々はこれらを解決するために国際連合や青年海外協力隊、NGO などの活動を通して積極的に世界の平和と発展に貢献している。 ⑤	◆さまざまな取り組みの共通点や類似点を明確にするように促す。その際、「ことば」にある「持続可能な社会」「国際協力」などを視点として考えさせる。	[知技②] ノートの記事内容などから、「調べたことをまとめ、我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解しているか」を評価する。
いかす	①世界の課題の解決に向けて P. 106～107 SDGs の 17 の目標を参考に、世界のさまざまな課題の解決のために、自分たちにできることを考えましょう。 (1 時間)	○SDGsの17の目標について、今までの社会科の学習を振り返る。 ・ 紛争が原因で今も苦しむ子どもがいることは、目標の16が達成されていない。その解決のため、世界各国が支援をしている。 ○SDGsの目標を達成するためにはどのような社会の在り方が必要かを考え、わたしたち一人一人ができることについて考える。 国際社会には SDGs の目標に分類されるようなさまざまな課題があり、これからも継続して解決に向けた取り組みを進めることが必要である。 ①	◆問題の解決のためには何が必要かを考えさせながら、今の自分にできること、将来どのようなことがしたいかを明らかにするよう促す。	[思判表②] ノートの記事内容などから、「今後、我が国が国際社会において果たすべき役割を考えたり選択・判断したりして、適切に表現しているか」を評価する。 [態度②] ノートの記事内容などから、「学習したことをもとに、今後我が国が国際社会において果たすべき役割を考えようとしているか」を評価する。